

静岡県立農林環境専門職大学

専任教員 研究概要



令和6年8月

1 生産環境経営学部（大学）

	教員名	職位	キーワード/専門分野	ページ
1	逢坂 興宏	教授	砂防学、森林水文学、緑化学	1
2	池田 潔彦	教授	木材材質学、木材物理学、非破壊検査	2
3	大塚 誠	教授	家畜、飼養管理、衛生管理、ニワトリ、雌雄鑑別	3
4	小澤 朗人	教授	病害虫、防除、チャ、農薬、天敵、ダニ、ドローン/応用昆虫学	4
5	柯 麗華	教授	流通、マーケティング、チャネル戦略、小売業の比較研究、越境電子商取引	5
6	金岡 正樹	教授	農業経営学、農業経済学、企業の発展、人的資源管理、技術の経営的評価	6
7	金子 修治	教授	農業害虫、天敵、生態解明、防除技術開発、IPM、生物種間相互作用	7
8	杉山 恵太郎	教授	応用昆虫、天敵生物、IPM、施設園芸、環境制御、自然環境復元	8
9	祐森 誠司	教授	栄養、飼料、管理、アミノ酸、ビタミン	9
10	外側 正之	教授	「植物病理学」、「糸状菌・細菌」、Fusarium（フザリウム）属菌」、「土壌伝染性病害」、「生態と防除」	10
11	内藤 博敬	教授	・衛生（食品衛生/環境衛生）・微生物/感染症（食中毒）・オゾン、オゾン水、機能水・光触媒等の新しい抗菌技術・予防医学	11
12	丹羽 康夫	教授	分子生物学、在来作物、バイオテクノロジー、ゲノム系統解析、農林業と伝統芸能・文化	12
13	太田 智	准教授	農福連携、果樹、遺伝育種、系統分類	13
14	上園 薫	准教授	【キーワード】ジビエ、火山灰、食用花、HACCP、有用微生物、機能性、地域連携 【専門分野】食品加工学、食品衛生学、食品機能学	14
15	小舘 琢磨	准教授	イネ・ダイズ・品質・多収・育種・米飯/「作物学」「植物育種学」「食品科学」のうち、栽培・品質に関連する分野	15
16	佐藤 景子	准教授	・果樹栽培・植物成長調節剤・温暖化	16

17	達 志保	准教授	民俗学・地域研究・口承研究、農業用水・用水文化・地域資源・渡来人伝説・口承文芸	17
18	平岡 裕一郎	准教授	林木育種、統計遺伝学、森林計測、大規模データ解析、樹木生理	18
19	藤代 薫	准教授	木材接着、木質材料、木材切削、振動特性、セルロースナノファイバー	19
20	大石 竜	講師	野菜、イチゴ、経営管理、法人化、生産管理	20
21	貞弘 恵	講師	サルモネラ、病原性大腸菌、薬剤耐性、腸内腸内細菌叢	21
22	長藤 亮彦	講師	トラクターの構造と機能、運転操作、農作業安全、大型特殊免許、けん引免許	22
23	鎌田 修全	助教	果樹農業、農産物流通、果実小売店、フードシステム、リンゴ	23
24	武藤 貴大	助教	花き栽培、環境制御、育種、開花調節	24

2 短期大学部（短大）

	教員名	職位	キーワード/専門分野	ページ
1	横田 茂永	教授	農業経済、農業経営、有機農業、新規参入、企業の農業参入	25
2	長田 雅宏	教授	畜産学、畜産経営、循環型農業、自給飼料生産、酪農新規参入、狩猟学	26
3	川村 英輔	教授	家畜ふん尿・堆肥・污水处理・発酵熱・リン回収・悪臭・資源化・LCA・環境影響評価	27
4	杉山 泰之	教授	果樹、栄養診断、土壌肥料、GAP	28
5	鈴木 利和	教授	茶栽培と利用加工、作物生産科学	29
6	西村 安代	教授	野菜、施設栽培、養液栽培、農業用フィルム、バイオステミュラント、植物生理	30
7	三井 勝也	教授	木材物理学、木質材料学、化学修飾	31
8	渡邊 貴之	教授	黒毛和種、代謝プロファイルテスト、受精卵移植、放牧、牛繁殖領域における超音波画像診断	32

9	鵜飼 一博	准教授	・南アルプス、ニホンジカ、高山植物、植生回復・復元 ・森林科学、森林利用学、森林計画学、原木シイタケ栽培、教育	33
10	外岡 慎	准教授	花き、園芸、栽培、開花調節、日持ち	34
11	中根 健	准教授	野菜栽培、野菜品質評価、野菜流通技術、野菜鮮度保持技術、野菜貯蔵技術	35
12	中野 敬之	准教授	茶園管理技術、気象災害防止、気象反応特性の解明、生育予測	36
13	山家 一哲	准教授	果樹栽培、青果物鮮度保持、環境保全	37
14	吉村 親	准教授	食農教育、農業小学校、都市農村交流、グリーン・ツーリズム、新規就農、移住、農地、農業と福祉、生涯学習	38
15	青山 東一	講師	農業、畜産、養豚、環境、加工	39
16	池ヶ谷 篤	講師	[キーワード] イチゴ、食品加工、官能評価、貯蔵流通、輸出 [専門分野] 食品加工学、調理科学、青果保蔵学	40
17	坂口 良介	講師	野菜、トマト、養液栽培、土壌、植物栄養	41
18	瀬戸 隆弘	講師	酪農、予防獣医療、生体モニタリングデータの活用	42
19	星川 健史	講師	林業経営、木材加工、木材流通、リモートセンシング	43
20	増田 壽彦	講師	野菜栽培、営農指導、普及指導、砂地野菜、スイートコーン栽培	44

生産環境経営学部

おうさか おきひろ
逢坂 興宏

【生産環境経営学部】



osaka.okihiro あつと spua.ac.jp



アピールポイント

山地斜面の安定性を評価するため、
地形～水文～土層構造～根系分布
の相互関係を研究しています。

キーワード／専門分野

- ・砂防学
- ・森林水文学
- ・緑化学

主な研究分野／活動実績

静岡大学農学部 | 1993-2019

砂防学分野

Quantitative decrease in the area of slope failures in a mountainous area with vegetation cover, 富士川上流小武川における崩壊地の変遷について, 密度の異なる竹林試験区における地表流出と土壌侵食, 平成 26 年 7 月 9 日長野県南木曾町で発生した土石流災害, Behavior of boulders within a debris flow initiation zone, Investigation of volcanic deposits using a combined penetrometer-moisture probe, Application in Izu-Oshima Volcano, Japan.

森林水文学分野

谷の発達程度の異なる山地小流域間における降雨流出特性の違い, 大規模崩壊地を有する流域の流出特性, 集落周辺の里山小流域における洪水流出の形成について, 荒廃小流域における掃流砂・浮遊砂の流出実態, 荒廃小流域を流下する渓流水の降雨時の水質変化, 丘陵地谷頭部斜面における飽和帯形成に及ぼす降雨条件

緑化学分野

風化花崗岩斜面におけるヒノキ人工林の根系分布と土層構造, ヒノキ人工林における樹木根系分布に与える土層の硬さの影響, 大規模崩壊地を有する溪畔域において動的立地環境が植生遷移に及ぼす影響, 緑化のり面における倒木の発生事例とその要因, 植生工施工後の植生遷移と生育基盤の形成に関する基礎的研究, 立木境界に分布するヒノキの水平根量の推定, のり面緑化工の手引き

所属学会

公益社団法人 砂防学会, 公益社団法人 日本地すべり学会
一般社団法人 水文・水資源学会, 日本緑化学会
一般社団法人 日本森林学会, 中部森林学会

社会活動

イラン・個別専門家派遣事業短期専門家, (NPO) 静岡県自然史博物館ネットワーク監事, 人事院国家公務員 I 種試験(砂防)委員

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

学位：博士（農学）東京農工大学, 農学修士, 農学士

「花崗岩斜面土層の発達過程と安定性に関する研究」

受賞：砂防学会論文奨励賞（1996）

担当授業科目

<大学> 情報処理基礎, 情報処理応用, 農林業のための地学, 森林土木学, 森林計画・政策論（分担）, 環境と農林業（分担）他
<短大> 森林土木論, 森林計画学（分担）他

いけだ きよひこ
池田潔彦

【生産環境経営学部】



ikedakiyohiko あつと spua.ac.jp



アピールポイント

木材・木質材料の特性解明と有効活用手法（川中）の研究を核としながら、建築（川下）や林業（川上）との連携や森林資源循環を進める上で必要な狭間の研究や事業活動に関わってきました

キーワード／専門分野

木材材質学、木材物理学、非破壊検査

主な研究分野／活動実績

静岡県林業技術センター |1987～2006年

静岡県内各地域に生育するスギ・ヒノキ製材品の材質及び強度性能の解明、静岡県産材による構造用の大断面集成材、LVL（単板積層材）及び構造用合板の高信頼性製造技術の開発、次代検定林等のスギ・ヒノキ精英樹の材質特性の解明に従事（1988～1996年）。

民間企業との共同研究により、木材や丸太の強度性能を非破壊で評価する機器の開発や、樹皮廃材等バイオマス有効利用に関する研究に従事。（1997～2002年）

在来軸組木造住宅の耐震性向上技術と接合部耐力特性の向上技術の研究では、耐力壁や床組及び継手・仕口の耐力発現要因の解明や新たな接合金物の開発等に従事（2003～2006年）。

静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター |2007～2020年

材質育種の関連研究では、立木材質の非破評価手法、材質の優れた品種系統の早期選抜技術、森林施業（植栽密度、生育環境）等が材質形成に及ぼす影響の解明等に従事した。他の研究機関との共同研究（競争型研究資金）と、公的認証を可能とする高信頼性接着重ね梁の開発と、CO₂ヒートポンプを応用した木材乾燥装置の開発に取り組み、新たな木質材料や乾燥装置の開発に従事（2007～2012年）。

静岡県の新成長戦略研究では、木造建築用材を外材から県産材へ転換する製品創出技術の開発と、多様なニーズに対応する県産材供給体制構築に関する技術開発に従事し、原木グレーディングマシン、積層接着併せ梁や、内装材、外構材等の開発に従事（2012～2016年）。

近年の実施研究では、競争的研究資金による、要求性能に応じた木材を提供するため国産大径材丸太の強度から建築部材の強度を予測する技術の開発、原材料の安定供給による構造用集成材の低コスト化技術の開発、及び国産早生樹種の用材利用に向けた材質・加工特性の解明に従事（2016～2021年）。

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

学位：博士（農学） 東京大学

受賞歴：林業科学技術振興賞（1996年）、全国林業試験研究機関協議会研究功績賞（1997年）日本木材学会技術賞（2003年）、日本木材学会地域学術振興賞（2012年）、

研究テーマ：スギ・ヒノキ及び早生樹の早期材質評価、立木や木質材料の非破壊評価手法、木質構造材の耐力発現機構の解明

担当授業科目

<大学> 木材利用・流通論、経営実習 I II、経営分析演習 I II、プロジェクト研究、分担：企業実習、木材加工実習、木材生産システム、生産マネジメント実習 II（林業）<短大> 分担：木材流通・利用論、木材生産システム

大塚 誠

【生産環境経営学部】



otsuka.makoto あつと spua.ac.jp



アピールポイント

民間養豚場で豚の飼育管理や動物用医薬品メーカーで営業や研究に従事した後、農林水産省所管の研究機関で海外(タイ)での長期在外研究や家畜の飼養衛生管理業務に従事しました。畜産に関わるいろいろな職種や仕事を体験してきました。

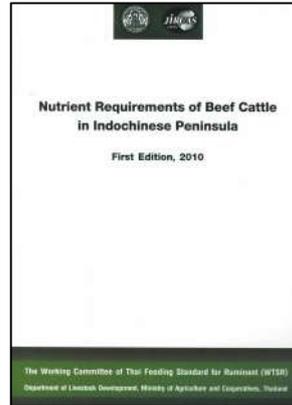
キーワード／専門分野

- ・家畜
- ・飼養管理
- ・衛生管理
- ・ニワトリ
- ・雌雄鑑別

主な研究分野／活動実績

国際農林水産業研究センター | H19.7-H23.3

タイのコンケン大学を拠点に、インドシナ半島で飼育されている熱帯種肉用牛の飼育管理マニュアル(飼養標準)を作成する国際共同研究プロジェクト(タイ、ラオス、カンボジアの1政府機関10大学)に従事しました。



熱帯肉用牛の飼養標準



インドシナ半島地域の在来種肉用牛

農業・食品産業技術総合研究機構 | H23.4-R2.3

畜産研究部門で飼育されている家畜の飼育管理業務や家畜伝染病の発生を防止するための防疫管理業務に従事しました。また、ヒナの雌雄鑑別を簡易に行える内視鏡鑑別法の開発にもたずさわりました。



内視鏡鑑別機でのヒナの雌雄鑑別

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

学 位：博士（農学）

受賞等：第37回福島県獣医畜産技術総合研究発表会 最優秀賞（H10.7）、タイ国農業協同組合省畜産振興局ならびにタイ国反芻家畜飼養標準作成委員会より表彰盾を拝受(H23.3)、コンケン大学農学部より表彰盾を拝受(H23.3)

研究テーマ：家畜の飼養・衛生管理とニワトリの雌雄鑑別法

担当授業科目

家畜衛生学 <大学・短大> 生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ <大学> 圃場実習Ⅱ <短大>

おざわ あきひと
小澤 朗人

【生産環境経営学部】



ozawa.akhito あつと spua.ac.jp



アピールポイント

県の試験研究機関で長年にわたって現場の病害虫問題に取り組んできました。特に、茶業研究センターでの勤務が長く、チャの病害虫と防除に関する知識と経験が豊富です。近年は、新たな技術として、ドローンによる病害虫のリモートセンシング技術の開発にも取り組んでいます。

キーワード／専門分野

病害虫、防除、チャ、農薬、天敵、ダニ、ドローン／応用昆虫学



主な研究分野／活動実績

研究分野：農作物病害虫の生態と防除

静岡県農業試験場園芸部・病害虫部 | S60-H2

温室メロンの自動灌水装置の開発、病害虫発生予察、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の生態と防除法、野菜害虫コナガの薬剤抵抗性の解明など。



静岡県中遠病害虫防除所 | H2-6

農薬行政、病害虫発生予察事業、侵入害虫タバコナジラミの調査、チャ害虫クワシロカイガラムシの防除法など。オランダおよびイギリスの施設栽培における天敵農薬の利用実態を調査（1993年海外研修）。

静岡県農業試験場病害虫部 | H6-12

野菜花卉の害虫の生態と防除法、施設野菜における天敵農薬による生物的防除法、侵入害虫マメハモグリバエの生態解明と寄生蜂による生物的防除法の開発により博士号（農学）を取得。



静岡県茶業試験場（茶業研究センター） | H12-30

チャ炭疽病の被害解析、クワシロカイガラムシの防除適期予測法、クワシロカイガラムシやハマキガ類の薬剤抵抗性、マダラカサハラハムシの生態解明、土着天敵類の生物多様性と保護技術、フェロモン剤を利用した防除法の開発とIPM体系の実証、海外の農薬残留基準に適合する防除体系の構築、侵入害虫チャゲコナジラミの生態解明と防除対策、ドローンを活用したチャ病害虫のリモートセンシング技術など様々な課題に取り組む。



静岡県立農林大学校研究部 | H30-31

研究部アグリビジネス学科の学生を指導。指導学生は、ヤンマー懸賞論文の優秀賞やいわしんビジネスコンテストの最優秀賞等を受賞した。

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

博士（農学）、普及指導員、JUIDA 認定無人航空機操縦士・運航管理責任者

所属学会等：日本応用動物昆虫学会（代議員）、日本茶業学会、日本ダニ学会、関東東山病害虫研究会、関西病虫害研究会、農林害虫防除研究会

現在の研究テーマ：ドローンを活用したチャ病害虫の画像診断技術

担当授業科目

植物保護<短大>、環境保全型農林業論、企業実習、経営実習、経営分析演習、プロジェクト研究、フレッシュマンセミナー

柯麗華

【生産環境経営学部】



ka.reika あつと spua.ac.jp



アピールポイント

インバウンド・マーケティング、訪日中国人観光客の消費行動、中国人向けの越境電子商取引に関する研究分析を得意とする。

キーワード／専門分野

流通、マーケティング、チャンネル戦略、小売業の比較研究、越境電子商取引

主な研究分野／活動実績

愛知大学国際中国学研究センター

(2005年4月～2007年3月)

COE 研究員として勤務。所長および各研究部会主査と協力して、研究センター事業を推進するために必要な研究を行いながら、リサーチ・アシスタントや大学院生を統括し、研究会活動の運営を担当した。

研究成果として、単著『現代中国の小売業－日本、アメリカとの比較研究』（創成社、2007年）を出版。



愛知大学および椋山女学園大学非常勤講師

(2007年4月～2010年3月)

愛知大学で「商業経済論」「流通論」「環境マーケティング論」「国際マーケティング論」などの科目を担当。椋山女学園大学では「中国語」を担当した。

静岡産業大学経営学部、情報学部

2018年3月まで准教授として、「商学入門」「流通システム論」「マーケティング入門」「環境マーケティング」「ブランド論」「広告戦略論」「広告心理学」などの科目を担当し、2018年4月からは教授として勤務。

研究成果として、単著『爆買いを呼ぶおもてなし－中国人誘客への必須15の常識・非常識－』（静岡新聞社、2015年）を出版。



資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

学位：博士（経営学）愛知大学

研究テーマ：訪日中国人観光客の消費行動、日中両国の越境電子商取引の比較研究、お茶の販売チャネルの構築

担当授業科目

マーケティング論、販売管理実習、マーケティング・販売演習

金岡 正樹

【生産環境経営学部】



kanaoka.masaki あつと spua.ac.jp



アピールポイント

これまで農家の企業の発展に関する経営研究に携わってきました。特に、雇用労働力利用による家族農業経営の発展に関する実証研究に取り組んできました。

キーワード／専門分野

- ・農業経営学
- ・農業経済学
- ・企業の発展
- ・人的資源管理
- ・技術の経営的評価

主な研究分野／活動実績

農林水産省北海道農業試験場 | 1987～96年

研究者の振出として、厳しい自然条件と市場遠隔地に位置しているものの、遅くも高収益な大規模専業家族経営をなしとげている十勝畑作経営を対象としました。地域農業の担い手として、生業的農家から企業の経営への育成が要請されはじめる前でしたが、そのための経営計画手法の開発や経営革新をして雇用利用による企業の展開をする経営者の目標や方針など経営行動の特徴についての研究に取り組んできました。

農林水産省東北農業試験場 | 1996～2002年

和牛品種の一つである日本短角種を対象に、技術研究者との「総合研究」に携わりました。傾斜地や林内に牧草を導入するために、機械研究者の開発した堆肥と牧草の種子を混合・成形して散布する（堆肥成形シードキューブ散布機）導入の経営的評価や、放牧をする公共牧場の経営改善のための調査研究などに取り組んできました。

九州沖縄農業研究センター | 2004～11年

農業法人の人的資源管理を研究しました。左図は従業員がどんな項目に満足と不満を感じているかを視覚的に示し、改善すべき項目の優先度を容易に理解できるように職務満足度分析ツールを開発しました。



農林水産省農林水産技術会議事務局 | 2002～04年

農研機構本部 総合企画調整部 | 2013～16年

中央農業研究センター 農業経営研究領域 | 2016～19年

中日本農業研究センター 研究推進部 | 2019～24年

上記の期間は、技会で研究調査官、機構本部で研究戦略チーム長、研究センターでは管理職として、研究開発行政の企画・調整、管理、研究推進に携わり、研究現場と生産現場との橋渡しをしてきました。

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

学位：博士（農学）、修士（経営学）

資格：農業改良普及員（S61）

研究テーマ：静岡県農業の構造と企業の経営展開課題の把握

担当授業科目

農林業経営学、農林業政策、経営戦略、経営組織論、営農と農業関連法。

かねこ しゅうじ 金子 修治

【生産環境経営学部】

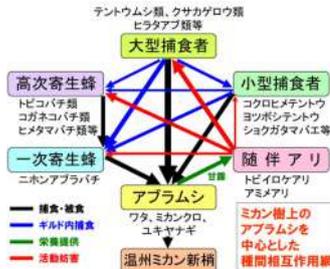


主な研究分野／活動実績

静岡県農林技術研究所 | 1995～2014年

【カンキツ】

- ・アブラムシ類をめぐる複数種の天敵昆虫と随伴アリとの相互関係の解明
- ・炭酸カルシウム微粉末剤を用いたチャノキイロアザミウマの物理的防除手法の確立



炭酸カルシウム微粉末剤を散布したミカン樹



【チャ】

- ・クワシロカイガラムシの土着天敵ハレヤヒメテントウの生態解明と活用技術の開発



カボチャによるハレヤヒメテントウの増殖

(地方独立行政法人) 大阪府立環境農林水産総合研究所 | 2016～2023年

【野菜】

- ・IoT 自動撮影カメラを装着したフェロモントラップによるチョウ目害虫の省力的発生予察手法の開発



IoTカメラを装着したフェロモントラップ

アピールポイント

約30年にわたり、カンキツ、チャ、野菜など様々な農作物で、害虫および天敵の生態解明、害虫防除技術の開発、IPM体系の確立などに従事してきました。特に、天敵など生物種間の相互関係に注目した研究を進めています。

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

資格：普及指導員（農業）

学位：博士（理学）

受賞歴：日本昆虫学会学会賞（論文賞）（2003年）

キーワード／専門分野

- ・農業害虫
- ・天敵
- ・生態解明
- ・防除技術開発、IPM
- ・生物種間相互作用

担当授業科目

<大学> 応用昆虫学、県内農林業事情、総合実習（茶）、圃場実習（茶）、生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ（茶）

<短大> 植物保護

すぎやま けいたろう
杉山 恵太郎

【生産環境経営学部】



sugiyama.keitaro あつと spua.ac.jp



アピールポイント

これまでは、農業害虫の生態から防除対策、特に天敵生物によるIPMに取り組んできました。今後は、施設園芸の環境制御の開発、さらに自然環境の保全・復元とテーマを広げて取り組んでいきたいです。

キーワード／専門分野

応用昆虫、天敵生物、IPM
施設園芸、環境制御、自然環境復元

主な研究分野／活動実績

トマト栽培における天敵寄生蜂を利用した総合的病害虫管理（IPM） | 1999～2003

海外から侵入した農薬に対する高い抵抗性をもつコナジラミ類、ハモグリバエ類に対して天敵寄生蜂を中心とした防除体系により、化学農薬を大幅に削減し、経済的に成立することを明らかにした。（国庫：プロジェクト研究 環境負荷低減のための病害虫群高度管理技術）

強制換気システム導入施設における土着天敵寄生蜂等を利用したトマトのIPM体系 | 2004～2008

温室に設置した強制換気システムによる害虫侵入防止技術、土着天敵寄生蜂によるハモグリバエ類の防除技術などをトマトのIPMとして体系化し、その有効性を明らかにした。（国庫：プロジェクト研究 生物機能を活用した環境負荷低減技術の開発）



タバココナジラミ チチュウカイツヤコバチ マメハモグリバエ カンムリヒメコバチ 強制換気温室

環境に配慮したワサビにおける総合的作物管理システムの確立 | 2006～2008

静岡県が中核機関として長野県、岩手県、島根県、静岡大学、全国わさび生産者協議会と取組んだ国庫事業において、カブラハバチ、スジグロチョウ、アブラムシ類の防除技術を明らかにし、ワサビの総合的作物（ICM）マニュアルとして体系化した。（国庫：新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業研究）

県内施設園芸の生産性向上と拡大への取組 | 2014～2019

県内のJA部会員等と温室の環境制御技術の勉強会や作物の生育と環境分析の取組を支援し、温室の新設に対する補助を行った。

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

博士（農学）、普及指導員、学芸員

園芸作物の害虫防除技術の開発、施設園芸の環境制御技術の開発、自然環境復元技術（ビオトープ）の開発

担当授業科目

<大学> 農学概論、県内農林業事情、農林業生産理論、園芸学、県外農林業事情、園芸学各論、海外農林業事情、企業実習、経営実習、経営分析演習、プロジェクト研究、<短大> 農学概論

すけもり せいじ 祐森 誠司

【生産環境経営学部】



sukemori.seiji あつと spua.ac.jp



アピールポイント

動物の栄養、飼料に関する領域ならびに排泄物処理に関する領域を専門とします。動物の種類は基本的に四つ足動物であれば、家畜、実験動物、ペットの種類に関係なく対応できると思いますので、ひとまずご相談下さい。

学会活動：日本養豚学会会長、日本畜産環境学会、理事ならびに編集委員長

社会活動：TV番組、新聞などの専門領域解説対応も多数

著書：

動物飼養学（養賢堂）

養豚用語事典（創文）

動物の飼育管理（文永堂出版）

キーワード／専門分野

栄養、飼料、管理、アミノ酸、ビタミン

主な研究分野／活動実績

所属 | 在職期間

1987-1992：鹿光グループ（鹿友ビル（株）、鹿光生物化学研究所）栄養素条件（アミノ酸バランス）の変更と制癌剤効果の因果関係について in vitro 試験を実施しました。

Inhibition of cultured leukemia cell growth by enhanced adriamycin cytotoxicity with reducing of glutamine or asparagine level in medium Cancer Biochem. Biophys. 第14巻 pp.99~105 などです。

1992-1995：秋田県立農業短期大学（畜産学科）トナカイの飼養管理方法の検討と食品製造粕を利用した養豚について試験に取り組みました。

トナカイ(Rangifer tarandus)の放牧地における行動-飼育環境評価の一指標としての行動調査- 秋田県立農業短大研究報告 第20巻 pp.63~68

The effect of treading by reindeer and Yeso Sika deer hooves on the compaction of land surface in grazing areas 家畜管理会誌 第30巻 第3号 pp.63~68 などです。

1995-2020：東京農業大学農学部（畜産学科・教養部）ネズミ・ウサギの栄養素要求に対する食糞行動の役割、畜産領域におけるL-カルニチンの役割について取り組みました。

Amino acid, mineral and vitamin levels in hydrous faeces obtained from coprophagy-prevented rats J.Anim.Physiol. a.Anim.Nutr. 第87巻 pp.213~220

産歴の多い繁殖雌豚の分娩前後にL-カルニチンを短期給与することが母豚の体重変化および子豚の成長に及ぼす影響 日本養豚学会誌 第49巻 第2号 pp.31~37 などです。

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

東京農業大学大学院農学研究科博士後期課程

1987：「細胞膜におけるアミノ酸の移行に対するL-Prolineの役割」農学博士取得しました。

2011：日本養豚学会丹羽賞（学術賞）を受賞しました。

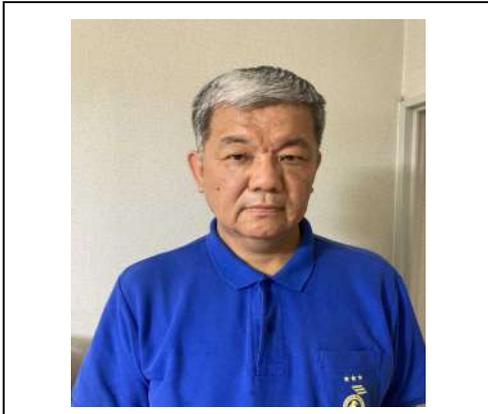
2014、2017、2019：Animal Science Journal Reviewers Award を受賞しています。

担当授業科目

家畜飼養学、飼料学総論、農林業のための化学などを単身で担当し、農学概論、県内農林事情、農業生産理論をオムニバスで担当しています。

とがわ まさゆき
外側 正之

【生産環境経営学部】



togawa.masayuki あつと spua.ac.jp



アピールポイント

微生物による植物の病害について、生態の解明や病原体の同定および防除法の確立に関する研究を行っています。

微生物の中でも、特に、糸状菌・細菌による植物病害を研究しています。ライフワークは、*Fusarium* (フザリウム) 属菌の生態解明です。

キーワード／専門分野

- ・「植物病理学」
- ・「糸状菌・細菌」
- ・*Fusarium* (フザリウム) 属菌」
- ・「土壌伝染性病害」
- ・「生態と防除」

主な研究分野／活動実績

35年間、一貫して静岡県の「植物保護」業務に携わってきました。

静岡県内における、樹木を含むあらゆる農作物について、病害の診断・調査と、防除対策の研究・指導を行ってきました。

また、全国の「植物病理」関係者と交流があるので、私がかからない場合でも、必要に応じ対応可能な研究者を紹介できます。

・農業試験場南伊豆分場（昭和60～平成元年）

花・観葉植物・伊豆特産野菜の病害虫を担当

・柑橘試験場（平成2～平成5年）

果樹の病害を担当

・中部病害虫防除所（平成6～7年）

中部・志太榛原地区における病害虫を担当

・(統合)病害虫防除所（平成8～11年）

県内全域の病害虫および農薬行政を担当

・農業試験場病害虫部（平成12～19年）

野菜・花・樹木の病害担当

・茶業研究センター（平成20～28年）

チャの病害担当

・病害虫防除所（平成29～31年）

県内主要農作物の病害および農薬行政の一環として「農作物病害虫防除基準」編集を担当

代表的な赤色系フザリウム属菌 (*F. graminearum*)



資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

- ・博士（農学）「赤色系 *Fusarium* 属菌による各種植物病害に関する研究」平成16年
- ・樹木医（登録番号2034号）平成23年
- ・普及指導員（第4168号）平成18年

担当授業科目

<大学>「植物病理学」、「環境と農林業」、「農学概論」、「土壌肥料・植物栄養学」、「経営実習ⅠⅡ」、「経営分析演習ⅠⅡ」、「プロジェクト研究ⅠⅡ」

内藤博敬

【生産環境経営学部】



Naito.hirotaka@spua.ac.jp



0538-31-7932

アピールポイント

- ・オゾン水の研究分野では著名
- ・衛生の中でも、微生物、感染症が専門
- ・抗菌、抗ウイルスなど予防スペシャリスト
- ・遺伝子、タンパク質、細胞まで扱ってきた
- ・リスク教育、科学コミュについても精通
- ・小説で奨励賞をもらっていたりする

キーワード／専門分野

- ・衛生（食品衛生／環境衛生）
- ・微生物／感染症（食中毒）
- ・オゾン、オゾン水、機能水
- ・光触媒等の新しい抗菌技術
- ・予防医学

主な研究分野／活動実績

日本医療・環境オゾン学会 副会長 | 2013～

環境負荷の少ないオゾン水などの機能水の効用に着目し、新型コロナウイルスなどの病原体処理効果だけでなく、有効活用法についても検討しています。また、電解水などの新しい科学技術の評価法について、検討・開発しています。

- ・Inactivation Mechanism of SARS-CoV-2 By Ozone in Aqueous and Gas Phases., J Microorg. Cont., Vol.28 No.2 43-48, 2023
- ・野菜の保存におけるオゾン水洗浄とオゾンガス保存の相乗効果, 医療環境オゾン研究 Vol.25 No.4, 132-141, 2018

静岡県立大学 | 1993～2020

海外の水産養殖時に発生する感染症対策や水処理について、前述の機能水を活用して対応してきました。また、アジア諸国では自動車化等による重金属汚染水が深刻です。ベトナム、インドネシア、タイ、モンゴルなどで、これらの調査、検査体制や対策について研究してきました。

- ・モンゴル国ウランバートル市周辺の遊牧家畜に対する鉛汚染調査., 環境科学会誌, 30 (4), 274-281.2017

日本リスク学会 |

感染リスク、疾患リスクなど、リスク、リスク認知の考え方・受け止め方を広く一般に普及させられるよう、リスク教育、リスクコミュニケーションやサイエンスコミュニケーション教育、教育ツール開発を行っています。

- ・リスク教育のためのリスクリテラシー測定尺度, 日本リスク研究学会誌 29 巻 4 号, 243-249, 2020

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

学位： 博士（学術） 岡山大学 2008

受賞： 日本オゾン協会第 29 回論文奨励賞 2022

（新型コロナウイルス対策としてのオゾン水の効果）

日本オゾン協会第 30 回論文賞 2023

(Quantitative Evaluation of the Inactivation of Ozonated Water on SARS-CoV-2 Based on Corrected CT Values", Ozone : Science & Engineering Vol.44, No.2, 148-156., 2022)

担当授業科目

医福食農連携論、食品科学、農と食の健康論
農林業のための科学、情報処理応用
経営実習、経営分析演習、プロジェクト研究

にわやすお 丹羽康夫

【生産環境経営学部】



主な研究分野／活動実績

静岡県立大学 | 1991年10月～2020年3月

植物への遺伝子導入や緑化メカニズムの基礎研究の他、ボストンでの客員研究員をきっかけに、緑色蛍光タンパク質“GFP”を植物で利用できるよう、ハーバード大学と共同研究、スイスではプロテオーム研究、さらに在来作物折戸ナスの遺伝子解析や県立大学薬学部の今井先生（現学長）中西先生らと病原性大腸菌 O157 撃退レタスの共同研究など



本学 | 2020年4月～

県内の在来作物を中心にした調査、ゲノム解析に加え、在来作物イラストマップの作成や新商品開発指導、小学校や高等学校へ出張講義、科学館やサイエンスカフェ、SBS 学苑等の講師を務める



<https://www.youtube.com/watch?v=ktswQjvkbNA>

その他経歴（期間）

静岡大学理学部 非常勤講師（2008年9月～09年3月）
静岡県農林技術研究所 客員共同研究員（2007年4月～08年3月）
スイス連邦工科大学 客員研究員（2004年3月～04年6月）
マサチューセッツ総合病院 客員研究員（1993年8月～93年11月）等



※研究活動等の詳細は、researchmap を参照 →

アピールポイント

失われつつある、各地域で長年大切に育まれ、継承されてきた“もの・こと”の大切さに気づき、そこに最先端の叡智を融合させることにより、豊かで持続可能な社会の実現に向けた取り組みを、人材育成を含め進めております。お祭り大好き！

キーワード／専門分野

- ・分子生物学
- ・在来作物
- ・バイオテクノロジー
- ・ゲノム系統解析
- ・農林業と伝統芸能・文化

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

《学位》博士(理学) 《資格》中学校・高等学校教諭免許状(理科)
《受賞歴》日本植物細胞分子生物学会奨励賞（2001年）日本植物学会特別賞（2005年）日本生物工学会論文賞（2008年）等

担当授業科目

- <大学> 分子生物学、生命科学、在来作物学、農学概論、技術者倫理、プロジェクト研究、経営分析演習
<短大> 分子生物学、農学概論

太田 智

【生産環境経営学部】



ohta.satoshi@spua.ac.jp



0538-31-7994

アピールポイント

2020年度から「農福連携」に関する研究を始めました。様々な分野の先生と共同で、「農福連携」の推進に役立つ幅広い研究を行いたいと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。

キーワード／専門分野

- ・農福連携
- ・果樹
- ・遺伝育種、系統分類

主な研究分野／活動実績

農福連携推進研究 ～共に生きる～

「農福連携」とは、障がい者の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに、障がい者の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する取り組みです。近年、全国的に普及し、成功事例が多く見られるようになりました。しかしながら、科学的な分野から「農福連携」を推進するような研究は行われていませんでした。そこで私は、共生社会の実現を理想とし、農学の立場から「農福連携」を推進しています。まずは、障がい者が実施可能な果樹の作業を明らかにしてきました。また、農作業が心身に与える影響に関し、共同研究を進めています。今後は、障がい者の活躍の場を広げるような技術開発にもチャレンジしたいです。

2020年度～ | 静岡県立農林環境専門職大学 生産環境経営学部

柑橘の育種学的研究

カンキツ育種や遺伝資源に関する研究を行ってきました。‘はるひ’、‘あすみ’、‘璃の香’などの品種育成に携わりました。オールジャパンでの育種体制の構築にも尽力しました。研究面では、木本植物におけるダイレクトPCR法の開発、DNAマーカーを利用したグラフィカルジェノタイプに基づく戻し交雑育種の効率化、抗ウイルス剤を用いた無毒化法の開発、温州みかんの両親の特定などを行いました。

2006年度 | 静岡大学大学院 農学研究科

2007～2019年度 | 農研機構 果樹茶業研究部門

桜の系統分類学的研究

日本産サクラ属サクラ亜属植物の系統分類学的研究を行いました。DNA分析により、日本に自生する野生種10種がどのように種分化してきたかを探り、日本産サクラ亜属野生種の系統樹を世界で初めて作成しました。また、伊豆地方にみられる‘河津桜’などの地方品種群の由来や類縁関係についても研究しました。

2001～2002年度 | 静岡大学大学院 農学研究科 (学生)

2003～2005年度 | 岐阜大学大学院 連合農学研究科 (学生)

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

- ・博士 (農学)
- ・日本育種学会 2016年度論文賞 (共著)
- ・日本果汁協会 技術奨励賞 (共著)

担当授業科目

- ・生命科学
- ・植物遺伝育種学概論
- ・各種実習 (栽培コース 果樹担当)

かみぞの かおる
上 薫

【生産環境経営学部】



Kamizono.kaoru あつと spua.ac.jp



電話

アピールポイント

古くて新しい食材である「ジビエ」や「食用花」などの付加価値探索と併せて、加工食品への応用を中心に研究しています。製造販売時に必要となる HACCP に関しても意識しながら、心豊かな食品提供につながるツール探求をしています。

キーワード／専門分野

【キーワード】

ジビエ、火山灰、食用花、HACCP、有用微生物、機能性、地域連携

【専門分野】

食品加工学、食品衛生学、食品機能学

主な研究分野／活動実績

東京家政学院短期大学・東京家政学院大学 1998～2024

○栄養士・家庭科教諭養成学科で、「食品・食品加工学」、「食品衛生学」、「栄養学」、「バイオサイエンス」など、食品に関連する多様な授業を担当して、現職に至っています。

○食品を多面的に捉え、新たな食品提案を行うことを得意としています。地域食材を取り上げた教材づくりや地域や企業の方と地域食材を活用した産品づくりを利活用のメニュー提案含め、協働してきました。

・地場農産物の教材活用検討について－江戸東京野菜の教材活用検討－東京家政学院大学紀要 第57号 pp.133-138 2017

○研究は食用花の成分・機能性探索（栄養成分・抗酸化作用・抗菌作用・抗ガン作用など）や火山灰を利用した火山灰干し（加工法の一つ；食材の臭み軽減などを確認中）の利用検討などを行っています。



地域連携販売商品
（梅ジュース）



火山灰干し



食用花（トレニア）
（ジャム；ピンク・白）

ジビエ関連事業 2021～

○行政事業などの委嘱を受け、情報発信のためにテキスト作成や講習会活動などを行っています。

- ・ジビエを考える【第6回】ジビエの栄養と特性 食品と容器 第64巻 第6号 pp.350-357 2023
- ・日本ジビエ振興協会理事
- ・ジビエ流通衛生管理高度化検討委員会委員 など



鹿骨スープ

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

【資格】栄養士、管理栄養士、HACCP 管理者資格、HACCP 認定講師（HACCP 管理者資格認定委員会）、Developing and Implementing HACCP Plans (The Institute of Food Science and Engineering Texas A&M University & U.S. Meat Export Federation)

【学位】博士（学術：食品科学）

【研究テーマ】・ジビエの利活用検討、食用花の成分・機能性探索など

担当授業科目

<大学> 食文化論、6次産業化実践論、野生鳥獣管理・利用論、食品加工実習、経営実習、経営分析演習、プロジェクト研究
<短大> 流通加工論、野生鳥獣管理・利用論、マーケティング・販売演習

こだて たくま 小 塚 磨

【生産環境経営学部】



kodate.takuma あつと spua.ac.jp



アピールポイント

◇主食である「食用作物」のうち、水稻・大豆を主な研究材料としています。収量性に関する栽培研究と生産から加工までの品質評価に関する研究を行っています。
◇その他、麦類・イモ類・雑穀類などの食用作物、工芸作物、緑肥作物の研究に取り組めます。実験室から圃場レベルまでの規模に応じた試験に対応します。
☆『作物』に関する話題であれば、栽培・品質に限らず、幅広く対応できます。

キーワード／専門分野

イネ・ダイズ・品質・多収・育種・米飯
／「作物学」「植物育種学」「食品科学」
のうち、栽培・品質に関連する分野

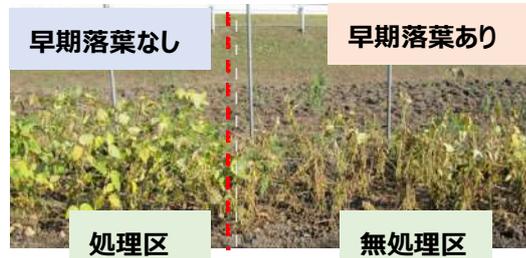
主な研究分野／活動実績

【主な研究分野】

◆水稻、豆類、麦類などの「食用作物」に関する研究を行っています◆

環境ストレスを低減する栽培法によって品質が向上する研究をしています

初期の生育が順調に進むことにより、生育後期の環境ストレスの影響が低減し、収穫物の品質が向上する研究を行っています



加工適性が高まる栽培法や育種と併せて品質評価の研究をしています

栽培から精米までの過程で発生する「胴割粒」によって、米飯のつぶれ等の要因である「水浸裂傷粒」が発生します
原料米の品質向上によって、加工製造における食品ロスの削減を目指します



☆寒冷地と亜熱帯地域とで水稻育種・品質に関する研究を行いました

【活動実績】

民間団体職員 | 2002

岩手県職員 | 2003-2023

- 農業改良普及センター（2003-2011, 2022-2023）
・水稻、大豆、麦、雑穀、ハウレンソウの指導のほか、集落営農や六次産業化など地域経営に関する普及指導活動を行ってきました
- 岩手県農業研究センター | 2012-2021
・水稻の品種開発に従事し、4品種・38地方系統を育成しました
・「チルド米飯ニーズと加工製造課題に即応する超多収低アミロース米系統の早期育成」研究代表者 | 2020-2021, 独法委託・イノベーション創出強化研究推進事業

静岡県立農林環境専門職大学 | 2024-

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

<資格> | 毒物劇物取扱責任者(一般) 2002年

普及指導員 2006年

<学位> | 博士(農学) 2021年「タンパク質含有率を制御した低アミロース米の加工特性及び理化学特性に関する研究」

担当授業科目

<大学> : 作物学・農林業のための先端技術・農業気象学・農学概論・経営実習・経営分析演習・プロジェクト研究

<短大> : 作物栽培・農林業のための科学・先端栽培技術・農学概論

さとう けいこ
佐藤 景子

【生産環境経営学部】



sato.keiko あつと spua.ac.jp



アピールポイント

前職では約 20 年間、カンキツの栽培生理研究を行ってきました。大学に赴任してから教育学的テーマに興味が出てきたので、様々な分野の先生方が身近にいる環境を生かして、ひとつの研究に育てていきたいと考えています。もちろん、果樹の研究もカンキツとそれ以外の果樹の研究にもチャレンジしていきたいです。

キーワード／専門分野

- ・果樹栽培
- ・植物成長調節剤
- ・温暖化

主な研究分野／活動実績

農研機構果樹茶業研究部門 | 2004 年～2023 年

○カンキツにおける植物成長調節剤の利用に関する研究

早生・中生温州ミカンの浮皮軽減に適したジベレリン (GA) とプロヒドロジャスモン (PDJ) の混合液の散布濃度と時期の解明、温州ミカンの引きもぎ性を向上させる GA と PDJ の混合液およびエテホンの散布濃度と時期の解明、温州ミカンの施設栽培における 1-ナフトレン酢酸ナトリウムを用いた夏枝結果母枝の充実促進技術について研究を行いました。

日本植物調節剤研究協会果樹関係植物調節剤専門委員会専門調査員を 3 年間務めました。



(左)温州ミカンの浮皮果、(中央)植調剤散布試験の様子、(右)カンキツの引きもぎ収穫試験の様子

○温暖化がカンキツの成熟過程に及ぼす影響について研究

人工気象室などを用いて、2～4℃の気温上昇により生理落果と浮皮が助長されることを明らかにしました。

○カンキツの省力的栽培技術に関する研究

本学の杉山泰之先生らとともに片面交互結実栽培に関する研究を行い、中生の温州ミカンへの技術の適応性を評価していました。

○カンキツの酵素剥皮技術に関する研究

酵素剥皮処理がカンキツ果肉の機能性成分におよぼす影響とシロップ漬け瓶詰における残存酵素の影響について研究を行いました。



(左)片面交互結実栽培、(右)酵素剥皮した果肉

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

学位：博士（農学）筑波大学

2022 年度園芸学会功労賞（グループで受賞）

特技？：右利きですが、ミカンの皮をむくのは左手の方が得意です。

担当授業科目

<大学> 収穫後生理学、農林業のための生物学、園芸学（分担）、園芸学各論（分担）、土壌肥料・植物栄養学（分担） 他

<短大> 植物生理生態学

逵 志保

【生産環境経営学部】



tsuji.shiho あつと spua.ac.jp



アピールポイント

「地域を知る、地域で知る、地域の人びととともに知る」という姿勢をもって、研究を閉じることなく、国内外の地域の人びとともにおこなってきた。さらに現在では地域の人びとが自ら知ることを実践しており、そうした実践を支えていきたいと考えている。

キーワード／専門分野

民俗学・地域研究・口承研究

農業用水・用水文化・地域資源・
渡来人伝説・口承文芸

主な研究分野／活動実績

渡来人伝説研究 | 1987年～

徐福や百濟王といった渡来人伝説が、地域のなかでどのように語り継がれてきたのか。地域の人びとの暮らしと地域資源としての伝説との関係性を研究している。国内外でのフィールドでは研究交流だけでなく、セミナーやイベントのコーディネートにも関わっている。



農業用水史研究 | 2008年～

枝下用水（愛知県）では農業用水を農地を潤す用水としてだけでなく流域環境を担ってきたものと捉え、史資料に加え、用水とともに生きてきた人びとの聞き書きから用水史を記した。その後、地域の協働研究活動の拠点・枝下用水資料室を開室し、運営している。



資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

〈学位〉 博士（国際文化）愛知県立大学

〈受賞歴〉

2011年 中国国際徐福文化交流協会 徐福文化研究特別貢献賞

2013年 中国徐福会 徐福文化学術研究賞

2017年 農業農村工学会賞・著作賞（共著『枝下用水史』）

2020年 全国農村振興技術者連盟 2019年度「農村振興」優秀報
文表彰

担当授業科目

〈大学〉 農山村田園地域公共学、農村景域論、農林業史、歴史学概
論、プロジェクト研究 〈短大〉 農林業史

ひらおか ゆういちろう
平岡 裕一郎

【生産環境経営学部】



[hiraoka.yuichiro あつと spua.ac.jp](mailto:hiraoka.yuichiro@spua.ac.jp)



アピールポイント

林木のゲノム情報や森林の3次元点群データ、多数の試験林データなどを対象に、大規模データ解析や統計モデリングを行ってきました。

キーワード／専門分野

- ・林木育種
- ・統計遺伝学
- ・森林計測
- ・大規模データ解析
- ・樹木生理

主な研究分野／活動実績

(国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター |
2001～2018 年度

○ゲノム情報に基づく林木育種に関する研究

長期間を要する林木育種のサイクルを短縮するため、ゲノム情報を用いた育種が期待されています。スギゲノム全体をカバーする大量の DNA マーカー多型から成長、材質、雄花量等を予測する手法を開発しました。

○気候変動への適応のための育種に関する研究

化石燃料の使用により高オゾン・高 CO₂ 環境になるといわれています。FACE 内で育成したスギ育種苗の成長や生理応答から、通常は有害な高オゾン下でもスギの成長には大きな影響がないことがわかりました。

○3次元計測による森林計測手法に関する研究

森林内において地上型レーザーキャナで取得された3次元点群データの解析手法の開発を進めました。膨大な点群データを高速で処理し、高精度で樹木形質を推定することを可能にしました。



レーザーキャナで計測した試験林の3次元データ

○ハゼノキ・ウルシの遺伝育種研究

果実から木蠟（もくろう）を採るハゼノキや漆液を採るウルシの遺伝育種研究を行いました。毎年安定して多収量のハゼノキ品種を選抜しました。また DNA マーカーを利用して、外来樹種といわれる両樹種の過去の移入の歴史を探る研究も行いました。

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

学位・資格：博士（農学）、宅地建物取引士登録（登録済み）

受賞歴：日本木材学会論文賞、林木育種研究奨励賞、日本森林学会誌論文賞

担当授業科目

主担当：統計学、生産マネジメント実習 I（林業）、樹木・組織学、森林生態学

分担：農学概論、県内農林業事情、森林計画学 など

藤代 薫

【生産環境経営学部】



fujishiro.kaoru あつと spua.ac.jp



アピールポイント

企業経験を生かし、社会情勢を踏まえた現実味のある教育を心掛けています。また、木材や化学の知識を生かし、様々な角度から木材、木質材料の新たな可能性を検討しています。

キーワード／専門分野

- ・木材接着
- ・木質材料
- ・木材切削
- ・振動特性
- ・セルロースナノファイバー

主な研究分野／活動実績

ヤマハ株式会社 | 2006-2022

材料・化学系の技術者として様々な楽器や音響機器の接着仕様、木材の切削加工、木材の虫害管理、海外工場の工程監査、木材調達などの業務に従事。

岐阜大学大学院連合農学研究科 | 2017-2022 (社会人長期履修制度)

セルロースナノファイバーの添加による水性高分子-イソシアネート系接着剤 (API) の接着性向上に関する研究に従事。セルロースナノファイバーは、木材のパルプ等から作られるナノサイズの幅を持つ天然繊維で、軽く高強度で熱膨張しにくい。API は、建材などの木材に広く用いられる水性接着剤で、シックハウス症候群の原因となるホルムアルデヒドを含まない。

上記と並列でガラス転移点 (T_g) の異なるアクリル樹脂エマルジョン (AE) を用いた制振性木質材料の研究開発に従事。 T_g は、硬い樹脂が柔らかくなり始める温度のことで、制振性に強い影響を及ぼす。AE は、合成に多種多様なアクリルモノマーを用いることで、その物性を容易に調整できる。



セルロースナノファイバーの凍結乾燥



成形前の木質材料(パーティクルボード)

農林環境専門職大学生産環境経営学部 | 2022-

木材接着や木質材料に関する研究に加え、広葉樹や県産材の観点から、その利用に関する研究に取り組む。

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

学位：博士（農学）岐阜大学

資格：甲種危険物取扱者

受賞：日本接着学会ポスター賞、日本木材学会中部支部大会優秀賞

所属学会：日本木材学会、日本接着学会、セルロース学会など

担当授業科目

大学：木質科学概論、演習林実習、総合実習、経営実習 など

短大：樹木・組織学、演習林実習 I・II、総合実習 など

おいしい りゅう
大石 竜

【生産環境経営学部】



oishi.ryu あつと spua.ac.jp



アピールポイント

農業改良普及員として積極的に経営改善に取り組んでいる生産者の皆さんの姿を見てきました。この経験を糧に、教育・研究の両面で、経営向上に役立つ成果を出していきたいと考えています。

キーワード／専門分野

- ・野菜
- ・イチゴ
- ・経営管理
- ・法人化
- ・生産管理

主な研究分野／活動実績

静岡県立農林大学校・農林環境専門職大 |2019～

農林大学校では施設野菜のイチゴ、露地野菜のオクラ、レタス等、幅広く野菜の栽培指導を行ってきました。

研究テーマ「イチゴの草勢管理手法の検討」

施設園芸においては近年、環境制御技術に注目が集まり、生産現場にも導入されるケースが増えてきています。環境制御はその与えた環境により作物がどのように反応し、状態を維持していくかという草勢管理の考え方と不可分です。しかしながら、イチゴ生産においては、その草勢管理を行うための生育指標や基準といった基礎的な知見が整っているとは言えない状況です。

栽培試験により、現場で取り入れやすい生育指標や草勢管理の考え方を検討していきます。



静岡県西部農林事務所 |2015～2018

野菜の普及指導員として、多くの現場に入り、農家と共に仕事をしました。

主な活動として

- ・農業経営戦略に関する経営講座の企画運営
- ・外部専門家等の活用による農業経営法人化の支援
- ・外部専門家等の活用による農産物加工工程の効率化
- ・大型機械整備による大規模効率型農業のモデルケース創出

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

- ・ 博士（農学）
- ・ 農業改良普及員資格

担当授業科目

<大学> 総合実習、圃場実習、生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ
農林業経営学、環境と農林業、経営実習Ⅰ、Ⅱ ほか
<短大> 総合実習、圃場実習Ⅰ、圃場実習Ⅱ

貞弘 恵

【生産環境経営学部】



sadahiro.megumi@spua.ac.jp



0538-31-7991

アピールポイント

これまで畜産現場で発生する豚の大腸菌症や牛・豚のサルモネラ症など、腸管感染症の調査研究、現場対応に当たってきました。

その経験をもとに「下痢症から子豚を守る」をテーマに研究を進めています。



キーワード／専門分野

- ・サルモネラ、病原性大腸菌
- ・薬剤耐性
- ・腸内細菌叢

主な研究分野／活動実績

静岡県中遠農林事務所 家畜衛生課 | 5年間

高病原性鳥インフルエンザ、口蹄疫、豚熱など、畜産業に甚大な被害もたらす家畜の伝染性疾患の発生予防及びまん延防止のための検査や発生時に備えた防疫対策に携わりました。

静岡県志太榛原農林事務所 家畜検査課（細菌病担当）

| 4年間

県内で発生する家畜伝染病の診断や原因究明のための臨床検査や細菌検査を実施したり、細菌性疾患に関する調査研究を行いました。

研究テーマ

「県内で分離された豚丹毒菌の細菌学的検討および農場におけるワクチン接種の現状」

「多剤耐性 Salmonella O4:i:-による牛サルモネラ症発生事例と薬剤耐性遺伝子の解析」

【豚丹毒】



【牛サルモネラ症】



所属：静岡県立農林環境専門職大学 生産環境経営学部

| 2020年～

これまで薬剤耐性菌の感染により治療が難航する症例に度々遭遇したことから、畜産現場における抗菌剤の使用方法に疑問を感じました。

現在、養豚における抗菌剤使用量を削減するため、腸内細菌 *Akkermansia muciniphila* の機能を応用した離乳子豚の下痢症対策の研究に取り組んでいます。

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

資格：獣医師、普及指導員、JGAP【家畜・畜産物】指導員

学位：博士（生物資源科学）

担当授業科目

大学：家畜生理解剖学、GAP 演習、総合実習、圃場実習（畜産）
生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ

企業実習、経営実習、プロジェクト研究

短大：飼料総論、GAP 演習、総合実習、圃場実習Ⅰ、圃場実習Ⅱ

ながふじ あきひこ
長藤 亮彦

【生産環境経営学部】



nagafuji.akhiko あつと spua.ac.jp



アピールポイント

これまで担当してきたことが多岐にわたり、何が専門なのか分からないのですが、今、ここにある「機械研修」の道を究めるよう精進します。

キーワード／専門分野

トラクターの構造と機能、運転操作、農業安全、大型特殊免許、けん引免許

主な研究分野／活動実績

静岡県立農林大学校掛川機械研修場 | 2003～2005

農林大学校の学生と一般農業者を対象に、農業機械基本研修、農業機械士研修、農作業安全研修等の機械研修を実施しました。トラクターの運転操作方法、作業機の取り扱い、農作業安全の講義及び実習と、大型特殊(農耕車限定)等の運転免許取得を指導しました。



静岡県立農林大学校 | 2009～2010

園芸学科野菜コースの担任として、野菜の栽培管理や収穫調製、販売などを教えました。個性豊かな学生たちを相手に、勉強だけでなく生活指導や進路指導なども行い、社会人として通用する資質を身につけて卒業するように気を配りました。

静岡県経済産業部農業振興課 | 2011～2014

農業革新専門員として普及指導活動を推進しました。また、普及指導員研修の指導、人材育成計画の策定、国と府県が連携した「普及指導員のためのOJTマニュアル」の作成などに携わりました。

2011年の台風被害を受けて、施設園芸の強風対策に取り組み、「強風対策技術導入マニュアル」を作成しました。

静岡県農林技術研究所 | 2017～2020

重点研究課題の「ビジネス経営体の育成支援策の提案」における農業経営の法人化、組織育成、人材育成についての研究推進及び、「ふじのくに農水産物の輸出拡大技術の開発」における輸出振興策の検討と開発技術の経済性について研究を行いました。

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

専門技術員(H14)、普及指導員、教諭免許 高校(理科、農業) 中学(理科)、運転免許 大型特殊 けん引(農耕車限定)、フォークリフト 運転技能講習修了、農業機械利用技能検定員

担当授業科目

<大学> 大型機械実習Ⅰ、大型機械実習Ⅱ、農業気象学(分担)
<短大> 大型機械実習

かまだ まさよし
鎌田 修全

【生産環境経営学部】



kamada.masayoshi あつと spua.ac.jp



電話

アピールポイント

高校教員としての経験を踏まえて、学生に寄り添い、高校での学習内容を大学での学びに繋げる指導に徹するとともに、一研究者として、研究を通じて社会貢献に努めて参りたいと思います。

キーワード／専門分野

- ・果樹農業
- ・農産物流通
- ・果実小売店
- ・フードシステム
- ・リンゴ

主な研究分野／活動実績

公立高等学校 教員 | 2014~2024

高校教員（社会科）として10年間勤務。教科は、「倫理」「政治・経済」「現代社会」「公共」「世界史 A」などを担当。

中央大学大学院商学研究科 | 2019~

高校教員としての勤務する中で、生徒ともに学ぶ教員を目指し、大学院へ進学。研究テーマは、リンゴ農業を事例とした果樹農業に関する経営・経済的分析および果実小売業の研究を通じた果実流通分析。主な研究業績は以下の通りである。

【論文】

- ・鎌田修全（2021）「戦後リンゴ生産における高収量化・高品質化メカニズムの分析」『農業市場研究』第29巻第4号
- ・鎌田修全（2023）「『県オリジナル品種』を用いた製品差別化戦略の展開とその課題—長野県リンゴ産地の取組みを事例として—」『流通』No.53

他 単著2本、共著1本

【学会報告】

- ・鎌田修全「消費需要減退局面における果実小売店の対応とその課題」日本流通学会関東・甲信越部会 2024年度第2回研究会（2024年3月）

他 国際学会3回、国内学会4回

静岡県立農林環境専門職大学 | 2024~

果樹農業に関する経営・経済的分析および果実小売業の研究を通じた果実流通分析に継続的に取り組む。加えて、これまでの研究で得られた知見を踏まえ、静岡県農業に関する経営・経済的研究および本学の特色である農福連携についても研究を深めたい。

学位 | 資格 | 所属学会

学位：修士（学術）

資格：中学校教諭専修免許状（社会）、高等学校教諭専修免許状（公民）高等学校教諭一種免許状（地理・歴史）

所属学会：日本農業市場学会、日本流通学会、日本フードシステム学会、農業問題研究学会、東アジア経済経営学会

担当授業科目

大学：経営管理論、フードシステム論、食と農の起業論

短期大学：アグリ・フードシステム論

むとう たかひろ 武藤 貴大

【生産環境経営学部】



muto.takahiro あつと spua.ac.jp



アピールポイント

施設花きの環境制御技術の開発や、胚珠培養を用いた新たな品種開発に取り組んできました。

今後は、ビッグデータ解析による出荷予測モデルの構築、耐候性品種の開発を組合せ、気候変動に対応したデータ駆動型生産に関する研究を進めていきたいです。

キーワード／専門分野

- ・花き栽培
- ・環境制御
- ・育種
- ・開花調節

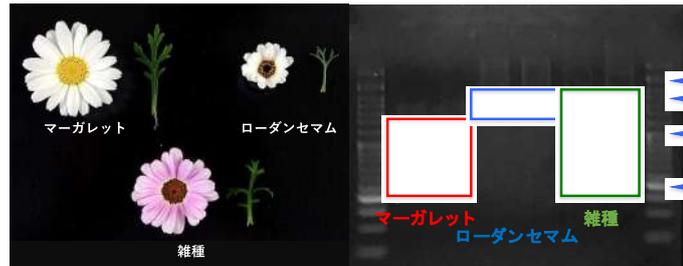
主な研究分野／活動実績

静岡県農林技術研究所伊豆農業研究センター所属 | 2012-2015

マーガレット属間雑種育成に関する研究

マーガレットへの新形質導入のため、多年生のローダンセマムとの属間交配を行い、胚珠培養により実生個体を獲得しました。

獲得個体について、遺伝子解析を行った結果、マーガレットとローダンセマム両方の遺伝子パターンを示したため、世界で初めてマーガレットとローダンセマムの属間雑種であることを明らかにしました。



静岡県農林技術研究所所属 | 2021-2023

バラの光環境制御に関する研究

冬季における収量増加と品質向上を目指し、LED補光による光環境制御技術を開発しました。

その結果、収量、上位階級率などの切り花品質を大幅に改善できることを明らかにしました。



トルコギキョウの計画生産技術の開発

トルコギキョウの春季出荷作型における開花時期の年次変動は、安定的な生産を実現するために大きな課題です。そこで、開花までの有効積算温度と基底温度を算出し、それらの指標を用いた計画生産技術を開発しました。目標とする収穫日から5日以内の誤差で収穫できることを明らかにし、トルコギキョウの安定計画生産に貢献する技術を確認しました。



資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

博士（農学）、普及指導員

研究テーマ

バラ、トルコギキョウのLED補光技術の開発、出荷予測技術の開発、鉢物マーガレットの生育制御技術開発、属間雑種育種

担当授業科目

<大学> 県内農林業事情、園芸学、園芸学各論、植物遺伝育種学概論、経営実習、プロジェクト研究 <短期大学部> 農学概論

短期大学部

よこた しげなが
横田 茂永

【短期大学部】



主な研究分野／活動実績

一般社団法人 J A 総合研究所－ J C 総研（現・日本協同組合連携機構）主任研究員 | 2007 年 1 月－2011 年 12 月

仕事内容は、農協・生協等協同組合組織のシンクタンクの研究員として、農業・農村に係る問題の調査・研究

【著書】

横田茂永『新たなリスク管理と認証制度の構築－放射性物質による食品汚染の現実－』2012 年、筑波書房

和泉真理・横田茂永『JA 総研叢書 6 農業の新人革命』2012 年、農山漁村文化協会

横田茂永『環境のための制度の構築－有機食品の認証制度を中心にして－』2012 年、筑波書房

一般社団法人全国農業会議所専門員 | 2013 年 6 月－2018 年 3 月

仕事内容は、農林水産省からの委託事業（農地集積協力金に係る補助金、農業参入フェア、新規就農支援事例調査）

京都大学「農林中央金庫」次世代を担う農企業戦略論講座特定准教授 | 2018 年 4 月－2020 年 3 月

仕事内容は、次世代の農業経営に関する研究、教育及び普及（シンポジウムの開催）活動を目的として講座運営

【著書】

小田滋晃、横田茂永、川崎訓昭「農業労働力問題をどう解決するか」『グローバル資本主義と農業・農政の未来像』2019 年、昭和堂

小田滋晃、坂本清彦、川崎訓昭、横田茂永編著『「農企業」のムーブメント』2019 年、昭和堂

小田滋晃、横田茂永、川崎訓昭編著『地域を支える「農企業」』2020 年、昭和堂



yokota.shigenaga あつと spua.ac.jp



アピールポイント

仕事をしてきた農業関係団体の全国連とも連携しつつ、現在の研究テーマに限らず、できることは幅広く対応しながら調査研究を進めていきたいと思ひます。

キーワード／専門分野

- ・農業経済
- ・農業経営、
- ・有機農業、
- ・新規参入
- ・企業の農業参入

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

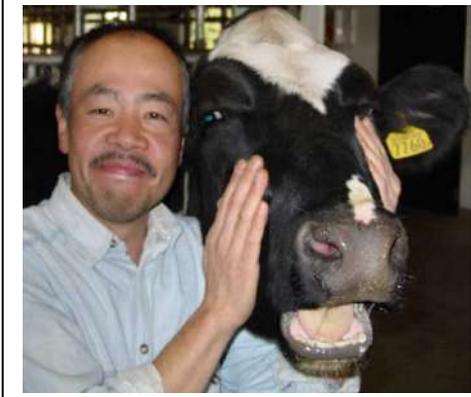
学位：博士（農学） 一般社団法人日本協同組合連携機構客員研究員（委嘱） 研究テーマは、有機農業の発展要因、新規就農の支援システム、企業の農業参入の意義など

担当授業科目

情報処理演習、農業経営 <短期大学部>
食品流通論、コミュニティビジネス論 <生産経営環境学部>

おさだ まさひろ
長田 雅宏

【短期大学部】



osada.masahiro あつと spua.ac.jp



0538-31-7919

アピールポイント

酪農新規就農を推進するための活動として酪農教育ファームがあります。小・中学生を対象に、命や食の学びをウシやヤギを通じて考えます。野外活動を実践することで、学生に実学の大切さを教示しています。

キーワード／専門分野

畜産学 畜産経営
循環型農業 自給飼料生産
酪農新規参入
狩猟学

主な研究分野／活動実績

所属 | 在職期間

静岡県出身 (1964)

東京農業大学 農学部 畜産学科 (1983-87)

東京農業大学大学院 農学研究科 環境共生学専攻博士後期課程 (2006-09)

富士開拓農業協同組合 営農指導部 (1988-2002)

日本獣医生命科学大学 附属牧場 研究技術員・専任講師

(2002-11)

日本獣医生命科学大学 応用生命科学部 動物科学科 教授

◎主な研究

(2011-23)

- ✓ 自給調製飼料の生産費と収益性
- ✓ 性判別技術と後継牛確保の得策

最適規模による収益性の高い自給的経営の構築を探求します。都府県型放牧酪農の可能性や作業預託、育成牧場の活用など、様々な経営戦略を検討することで安定した経営に導きます

- ✓ 都府県の酪農新規参入・経営継承

酪農家の減少により耕作地は荒れ、農村社会は疲弊しています。国内生産の存続のため新規参入を推進。全国の事例から成功要因を導きだします

- ✓ 酪農教育ファームの発展可能性

小・中学校における教育ファームは未来の後継者を育みます。新たな経営を創出し、夢と希望に満ち溢れた畜産の活性化を推し進めます

- ✓ 六次産業化の推進

経営の3原則は①コスト削減、②販売価格の増加、③規模拡大です。小規模経営の生産者が消費者との懸け橋となり、六次産業化を進めることは経営改善の効果も高いのです。商品の開発に大学生も関わることでビジネスを学びます。新しい発想と若き可能性を礎に堅固な畜産経営を目指します

- ✓ 野生鳥獣被害対策

畜産経営の視点から野生鳥獣問題に取り組みます。多くの学生が狩猟を体験し、森の恵みに感謝します

◎主な研究助成

科学研究費助成事業 基盤研究(C)16K07910 2016年度

「後継牛確保の得策と公共育成牧場の展開条件に関する研究」

科学研究費助成事業 基盤研究(C)20K06287 2020年度

「都府県酪農における新規参入の成功要因と推進課題の検討」

資格 | 学位

農業改良普及員、家畜人工授精師、家畜体内・体外受精卵移植、
わな猟狩猟免許、博士（環境共生学）

担当授業科目

畜産法規、営農と農業関連法、野生鳥獣管理・利用論、
畜産経営演習（大家畜）



川村英輔

【短期大学部】



kawamura.eisuke あつと spua.ac.jp



電話

アピールポイント

飼養頭数等から施設規模積算を行い、現有施設との乖離を可視化し、畜産環境分野の研究に基づいた家畜ふん尿処理施設の処理能力を発揮する手法の提案や助言ができます。また20年間の家畜ふん尿処理施設の運営・維持管理の経験から、現場での施設維持管理指導や施設増設の相談、畜産環境分野の指導者育成のための座学や実施設での現場研修なども対応可能です。

キーワード／専門分野

家畜ふん尿・堆肥・汚水処理・発酵熱・リン回収・悪臭・資源化・LCA・環境影響評価

主な研究分野／活動実績

神奈川県畜産技術センター | 1997～2017年・2020～2024年
(改称: 畜産研究所、農業技術センター畜産技術所)

<家畜ふん堆肥化処理>

家畜ふん堆肥化処理の効率化を目指し、送風量の増減や温風送風などの研究と合わせ、家畜ふん堆肥の利用についての研究に従事。家畜ふんを副資材と混合するなどの堆肥化初期の水分・比重調整の際、その調整の良否をバケツで判定する方法や示温材とペットボトルで発酵時の最高到達温度を可視化する簡易温度計を考案しました。簡易温度計(写真1)は商品化されており、これらの成果は畜産現場で活用されています。



写真1



写真2

<畜舎汚水浄化処理>

家畜用の回分式活性汚泥浄化槽の処理能力向上に関する研究を実施。処理水中の窒素を低減する間欠曝気の導入や処理水を希釈水として再利用する水資源の削減に関する研究に加え、豚舎汚水中の窒素とリンと同時に除去・回収する研究に従事。塩ビ管を使用した簡易型MAP回収装置を開発し、廃棄物である豚舎汚水から高純度のリン(写真2)を回収。回収したリンは、化成肥料として利用可能です。

<悪臭防除脱臭>

ゲルパーミエーションクロマトグラフィーやGC-MSを利用して、悪臭防止法上の悪臭物質以外の豚ふん由来の悪臭成分を明らかにするとともに、これらの悪臭成分が豚舎内の悪臭の主要物質であることを明らかにしました。

<資源エネルギー回収利用>

前述の豚舎汚水からの化成肥料様のリンを回収する技術に加え、密閉縦型発酵装置(コンポ)の排気熱を温風や温水として回収・利用する研究に従事。得られた温風は、コンポの入気として、また得られた40℃以上の温水は、子豚舎の床暖房の熱源として利用することで、ヒーターやボイラーの消費エネルギーの削減が図れました。

<環境影響評価>

持続可能な畜産経営となるよう家畜ふん尿処理施設の新設や増設の際、施設建設時や施設運用時に地球温暖化ガスや酸性化ガスの排出削減に寄与する処理システムについてLCAを用いた環境影響評価を行っています。

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

【資格】技術士(農業部門)、畜産環境アドバイザー(堆肥化技術・汚水処理技術・臭気新技術)、普及指導員、公害防止管理者(水質関係第I種)、家畜人工授精(牛)

【学位】博士(工学)

担当授業科目

畜産環境・堆肥利用論、畜産概論、家畜飼養、飼料総論、環境保全型農林業論、技術者倫理など

すぎやま やすゆき
杉山 泰之

【短期大学部】



sugiyama.yasuyuki あつと spua.ac.jp



アピールポイント

果樹研究センター勤務時は主にカンキツの栄養診断、土壌肥料の研究に従事していました。

県庁でGAPの業務に携わり、その重要性を理解しました。大学では全ての学生にGAPを教えます。卒業後は生産現場でGAPを実践できる生産者や社会人になってもらいたいと思います

キーワード／専門分野

- ・果樹
- ・栄養診断
- ・土壌肥料
- ・GAP

主な研究分野／活動実績

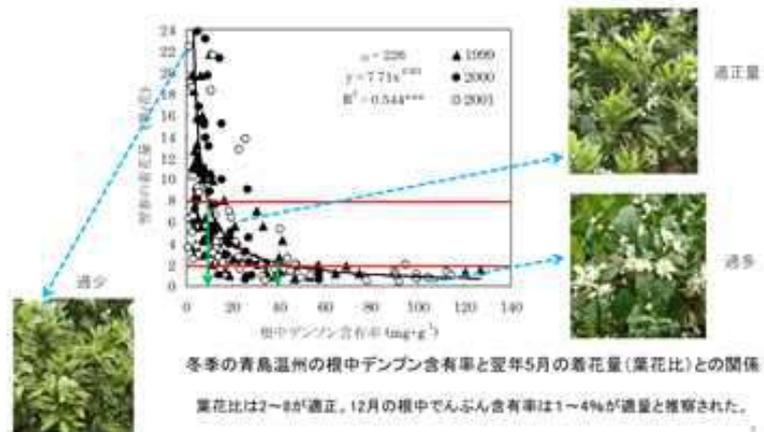
所属 静岡県果樹研究センター | 平成8～14年、17～21年

○果樹の簡易栄養診断技術の開発

・果樹の貯蔵養分の栄養診断指標であるでんぷん含有率を簡単に測定できる「ヨウ素比色法」を開発し、県内のモデル的な柑橘園（30園地）の栄養診断を行った。

・みかんの葉柄中の硝酸イオン濃度から簡単に栄養診断する方法を開発し、異なる施肥量で栽培された樹体の硝酸濃度の推移を明らかにした。
○ウンシュウミカンの樹体栄養測定法の確立とそれに基づく高品質、安定多収技術の開発

・「青島温州」における冬季の根中でんぷん含有率と収穫量、翌春の着花量の関係を解明し、適正な着花量になるための根中でんぷん含有率を明らかにした。



○カンキツ「はるみ」「不知火」の樹勢強化に関する研究

・品質が優れているものの樹勢が弱く、隔年結果性が強いカンキツの2品種について、¹⁵Nトレーサー法により吸肥特性を明らかにした。また、「不知火」について、樹勢強化のための適正な窒素施肥量と土壌改良資材の種類を検討した。

○柑橘における樹体栄養及び土壌のモニタリング手法の開発と有機物施用法の確立

・牛糞堆肥と乾燥鶏糞を肥料の代替資材としての活用方法を検討した。

資格 | 学位 | 研究テーマ

JGAP 指導員（農産物）、普及指導員 | 博士（農学） | 研究テーマ：はるみの果皮障害発生原因の解明、みかんの半樹交互結実栽培の実証、GAP 指導方法の確立

担当授業科目

果樹栽培、農学概論（果樹部分）、県内農林業事情（果樹部分）、営農と農業関連法（農薬取締法、肥料取締法、有機農業等の環境保全関係制度）、GAP 演習

鈴木 利和

【短期大学部】



suzuki.toshikazu@spua.ac.jp



0538-31-7985

アピールポイント

茶業研究センターでは、茶の安定生産技術開発を中心に幅広く茶の研究に従事していました。

これまでの普及、行政の経験や県内外の茶業関係者との連携も活かしつつ、学生の皆さんには生産、流通現場の現状を踏まえた有益な情報提供をしていきたいと思えます。

キーワード／専門分野

- ・茶栽培と利用加工
- ・作物生産科学

主な研究分野／活動実績

静岡県職員として35年間ほぼ一貫して茶関係の業務に携わり、研究では主に茶の安定生産技術の研究に従事してきた。

静岡県志太榛原農林事務所、中遠農林事務所 | 1989～1995年
茶担当農業改良普及員として農業者への技術・経営支援

静岡県茶業試験場 | 1996～2000年

茶浸出液の逆浸透濃縮法の開発

晩生品種「おくひかり」による中山間地茶業の改善

傾斜地におけるテラス式茶園整備法

静岡県お茶振興室、中遠農林事務所 | 2001～2005年

茶業振興担当として行政事務を担当

主に茶担当農業改良普及員として農業者への技術・経営支援

静岡県茶業研究センター | 2006～2018年

大井川流域の茶園景観の評価

二番茶後の整せん枝技術の開発

2010年凍霜害の事後対策技術の確立

品種「つゆひかり」の新芽硬化特性の解明

被覆チャ樹の樹体診断技術の開発

白葉茶を用いたテアニン成分の機能性表示に関する研究

静岡県農業戦略課 | 2019～2021年

茶革新支援専門員として行政事務、技術支援

静岡県茶業研究センター | 2022～2023年

ドリンク原料茶に対応した茶園管理規格の作成



茶樹のせん枝



優良茶園景観

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

資格:普及指導員、学位:博士(農学)

研究テーマ:茶の安定生産技術

受賞:2014年日本作物学会論文賞

担当授業科目

茶栽培、農学概論、総合実習、県内農林業事情、農業気象学、圃場実習Ⅰ・Ⅱ(茶)、企業実習、プロジェクト研究、技術者倫理、先端栽培技術

にしむら やすよ
西村 安代

【短期大学部】



nishimura.yasuyo あつと pua.ac.jp



電話

アピールポイント

野菜栽培における、光・養分などの栽培環境や新技術開発といったさまざまな研究をしてきました。また、民間企業では、農薬や肥料の研究開発、土壌分析や施肥アドバイスの経験もあります。これからも野菜栽培の発展に寄与できるような研究や学生指導をしていきたいです。

キーワード／専門分野

野菜、施設栽培、養液栽培、農業用フィルム、バイオスティミュラント、植物生理

主な研究分野／活動実績

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 | 2024～

イチゴの施設栽培



高知大学 | 2008-2024

1. 野菜の生育生理

(アールスメロンの養分動態、ナスの尻腐れ果などの生理障害)

2. 高機能性施設被覆フィルム

(赤外線・紫外線カット、ナシジ、波長変換 など)

3. 養液栽培の新技術開発

(ファインバブル・オゾン・炭酸水の利用、培養液加温・冷却、ニラの養液栽培、微生物を活用、親水性樹脂培地の開発 など)

4. バイオスティミュラント

(糖類・腐植資材の活用)

5. 栽培管理技術

(LED、超音波、水素の野菜栽培における活用 など)



ナシジフィルム展張ハウス内



樹脂培地で栽培したミニ大根



スイカの立体栽培

長崎総合科学大学 | 2006-2008

1. 波長変換フィルム展張下における野菜栽培

2. 循環型養液栽培に関する研究



波長変換フィルムを展張したハウス

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

学位：博士（農学）

資格：高等学校教諭一種免許（理科、農業）

受賞：農業生産技術管理学会学会賞奨励賞（2011）

担当授業科目

野菜栽培、施設園芸、農林業のための科学（オムニバス）、県内農林業事情(オムニバス)、営農と農業関連法(オムニバス)

総合実習、圃場実習Ⅰ・Ⅱ、プロジェクト研究

みつい かつや
三井 勝也

【短期大学部】



mitsui.katsuya あつと spua.ac.jp



アピールポイント

熱処理や化学修飾による木材の高機能化、特に、木材の3大欠点「燃える」「くるう」「腐る」の克服を目指しています。

キーワード／専門分野

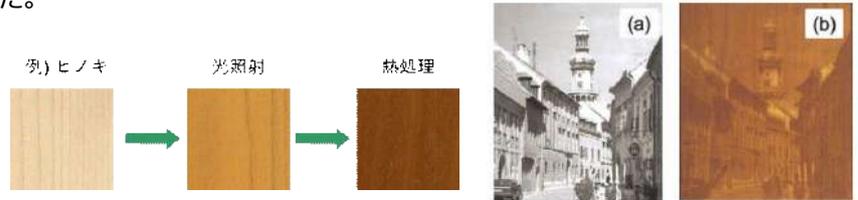
木材物理学
木質材料学
化学修飾

主な研究分野／活動実績

岐阜県生活技術研究所 | 平成6年～令和5年

■光と熱を用いた木材の新たな着色方法の開発

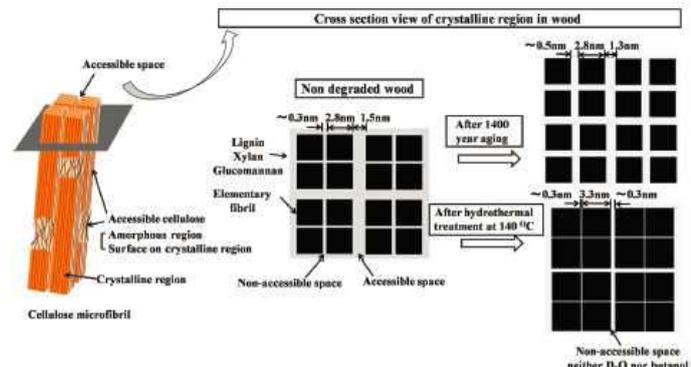
木材に光照射を行ったのち、熱処理を施すと、著しく材色に変化することを発見し、新たな木材の着色方法としての可能性を見出しました。また、その応用例として、木材表面上に写真転写を行うことに成功しました。



* Changes in the properties of light-irradiated wood with heat treatment. Part 1. Effect of treatment condition on the change in color. Holzforschung 55, 601-606 (2001). 他

■古材と熱処理材の差異

古材と熱処理材はその性質がよく似ているといわれています。そこで、近赤外分光法に重水素置換を取り入れ、セルロースの結晶構造を観察しました。



* Difference of the crystal structure of cellulose in wood after hydrothermal and aging degradation: A NIR spectroscopy and XRD study. Biomacromolecules 11, 2300-2305 (2010).

■その他、木材の光劣化の波長・温度依存性や木材表面の高撥水化なども行っています。

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

学位：博士（農学）

受賞歴：日本木材加工技術協会第2回市川賞

2016年度日本木材学会中部支部地域功労賞

担当授業科目

【短大】木材利用・流通論、林業経営、森林生態学、木材生産システム、県内農林業事情、県外農林業事情、海外農林業事情、総合実習、【四大】技術者倫理、農林業経営学、木材生産システム、木材加工実習

渡邊貴之

【短期大学部】



Watanabe.takayuki@spua.ac.jp



0538-31-7945

アピールポイント

代謝プロファイルテストとよばれる手法を用いて、繁殖和牛の栄養状態と繁殖性との関係について研究しております。また、繁殖和牛における繁殖性向上のための飼養管理方法について、研修会や商業誌等で紹介してきました。フィールドで利用できる技術開発を目指しています。

キーワード／専門分野

黒毛和種、代謝プロファイルテスト、受精卵移植、放牧、牛繁殖領域における超音波画像診断

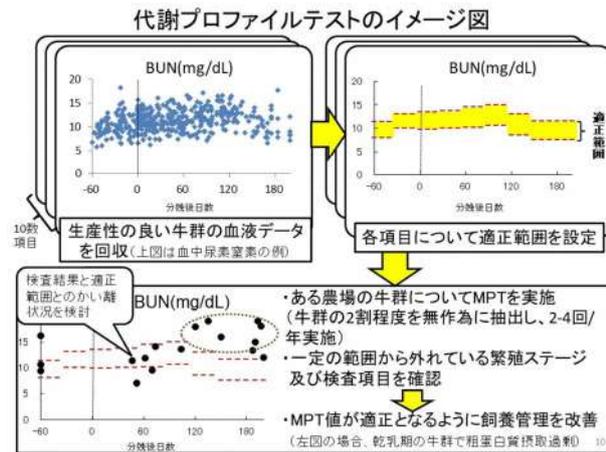
主な研究分野／活動実績

農林水産省家畜改良センター鳥取牧場 | 2000-2005 年

黒毛和種の改良手法として牛受精卵の切断・分離や割球分離による一卵性双子生産、生体卵子吸引-体外受精に関する研究を実施しました（過剰排卵処理における排卵後の経膈生体卵子吸引がウシ胚生産に及ぼす影響、日本胚移植研究会誌 26.pp73-80.2004）また、黒毛和種種雄牛の造成にも携わりました。

独立行政法人家畜改良センター鳥取牧場 | 2006-2020 年

代謝プロファイルテストを利用して、繁殖和牛の栄養状態と繁殖性の関係について研究を実施しました（黒毛和種受胎牛への高蛋白飼料給与が栄養状態と受胎率に及ぼす影響、産業動物臨床医誌(3).pp7-12.2012、繁殖性および発育が良好な黒毛和種繁殖育成雌牛群における代謝プロファイルテストの値、日本畜産学会報 85(4).pp479-485.2014、Influence of feeding methods on blood biochemical parameters of Japanese Black breeding herd. Animal Science Journal91.e13329J.2020 等）。



また、これらの研究成果について、研修会等を通じて解説するとともに、マニュアルの作成や商業誌等に連載してきました。

所属学会

日本畜産学会、肉用牛研究会、日本胚移植技術研究会、日本畜産環境学会

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

資格：家畜人工授精師（体内・体外受精卵移植師）、農場 HACCP 審査員

学位：博士（農学）

受賞歴：日本家畜臨床学会会長賞（2013）

担当授業科目

短大：農林業のための科学（オムニバス）、家畜育種繁殖、人工授精論、圃場実習Ⅱ、畜産経営演習（大家畜）、プロジェクト研究
大学：家畜育種繁殖学、人工授精論

うがい かずひろ
鴉飼 一博

【短期大学部】



ugai.kazuhiro あつと spua.ac.jp



0538-31-7987

アピールポイント

南アルプスにおいて、約 20 年間、ニホンジカの採食圧を受けたお花畑の回復・復元に取り組んでいます。

チェーンソーの取扱い等、短期間で効果のある実習方法を模索したり、またジャンボシイタケの生産方法の確立等、森林・林業に関わる身近な課題の解決に取り組んでいます。

キーワード

・南アルプス、ニホンジカ、高山植物、植生回復・復元
・森林科学、森林利用学、森林計画学、原木シイタケ栽培、教育

主な研究分野／活動実績

南アルプスにおけるニホンジカにより衰退したお花畑の回復・復元

南アルプスの亜高山帯・高山帯に生育する高山植物は、ニホンジカの採食により開花に至らない植物が増えている。

ニホンジカがこれら地域に進出するまではお花畑と言われる高山植物群落は、色とりどりの花を咲かせていました。近年はゴルフ場のグリーンと見間違えよう光景になっており、お花畑の回復・復元のために、植生保護柵を設置しています。

約 20 年間ニホンジカの侵入を防げた柵内は、かつてのお花畑と同等程度に回復・復元してきています。

地形や積雪深等の環境条件にあった植生保護柵を提案するとともに、植生の回復復元過程を調査しています。

写真は三伏峠（標高 2600 年）のお花畑の経年変化です。



ニホンジカ進出以前



ニホンジカ進出



植生保護柵内

原木シイタケ栽培におけるジャンボシイタケの生産

原木シイタケ栽培におけるジャンボシイタケの生産は全国的にもごくわずかで、身近に流通していません。ジャンボシイタケの生産に必要な環境条件を研究しています。



農林業におけるストレスと満足度について

農林業の従事者はストレスが低いと言われつつも、離職者はある程度の割合でいます。ストレスと仕事の満足度、不満等の関係を調べています。

チェーンソー等林業機械・機器類の操作向上の効果的な教育方法

林業は、安全面から、その操作方法を覚えなくてはいけない林業機械が多いため、短時間に操作方法を覚えるための、効果的な教育方法を研究しています。

学位

修士（農学）

担当授業科目

短 大： 演習林実習Ⅰ、演習林実習Ⅱ、木材生産システム
森林生態学、野生鳥獣管理・利用論
大 学： 環境保全型農林業論、生産マネジメント実習Ⅱ
野生鳥獣管理・利用論

外岡 慎

【短期大学部】



tonooka.makoto@sua.ac.jp



0538-31-7941

アピールポイント

静岡県が国内流通の約4割のシェアを占めるガーベラの栽培における生産性向上および流通における日持ち性向上技術の開発を中心に研究に取り組んでいます。

キーワード／専門分野

花き、園芸、栽培、開花調節、日持ち

主な研究分野／活動実績

静岡県農林技術研究所 | 2009年4月～2018年3月、
2020年4月-2023年3月

○ガーベラの日持ち性向上技術の開発

ガーベラは、切り花の中で日持ちが短いとされる代表的な品目です。その主な原因は、生け水中に増殖する細菌であることが知られています。研究では、細菌の増殖に、ガーベラ切り花から生け水中に溶出する糖や電解質が関与していることを明らかにしました。

○ガーベラの炭酸ガス施用による収量増加

冬期にガーベラ栽培を行う昼間の施設内の炭酸ガス濃度は、外気より低い状態です。この間、換気温度を高め、炭酸ガスを施用することにより収穫本数が増加します。収穫本数の増加は、芽数の増加によるものため、効果が明らかになるまで2か月程度要しますが、炭酸ガス施用を中止しても持続します。

静岡県立農林大学校 | 1999年4月-2002年3月

鉢物専攻を担当し、花き栽培の実習指導と卒業論文の作成指導を行いました。卒業論文では、ポインセチアの開花調節やファレノプシスの培地や液肥管理が生育に及ぼす影響などを担当しました。

静岡県農業試験場 | 1988年4月-1992年3月

○枝物の日持ち性向上技術の開発

ハナモモの切り枝を促成する際、抗菌剤に糖を添加した切り花用品質保持剤を利用することにより、開花数が増加するとともに、日持ちが向上します。

東部農林事務所 | 1985年4月-1988年3月
1993年4月-1996年3月

志太榛原農林事務所 | 1996年4月-1999年3月

西部農林事務所 | 2005年4月-2009年3月

普及指導員として、東部および西部農林では主に鉢物、志太榛原農林では主にバラの生産振興を担当しました。

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

博士(農学)、普及指導員

研究テーマ：花きの日持ち性向上技術の開発、ガーベラの生産性向上技術の開発

担当授業科目

<短大>農学概論(花き)、総合実習(花き)、圃場実習Ⅰ・Ⅱ(花き)、県内農林業事情(花き)、先端栽培技術①②、営農と農業関連法、花き栽培、企業実習、プロジェクト研究 <大学>農学概論(花き)

なかね たけし
中根 健

【短期大学部】



nakane.takeshi あつと spua.ac.jp



アピールポイント

野菜の品質評価
貯蔵・流通技術

キーワード／専門分野

- ・野菜栽培
- ・野菜品質評価
- ・野菜流通技術
- ・野菜鮮度保持技術
- ・野菜貯蔵技術

主な研究分野／活動実績

静岡県農業試験場園芸部 | 平成 6 年 4 月～平成 10 年 3 月

・野菜の品質評価法の開発

県産特産野菜を対象に非破壊品質評価法（近赤外分光分析法）により内容品質の評価法を開発。

メロン：糖度、トマト：糖度、酸度、イチゴ：糖度、酸度

県内企業と共同で携帯型測定機を開発、実用性評価

静岡県農業試験場東部園芸 | 平成 13 年 4 月～平成 16 年 3 月

・イチゴの省力栽培技術

未分化苗利用による省力栽培法を確立した

収量：同等、育苗日数：60 日→7 日、葉数：3.5 葉→1～2 葉

・難防除病害虫の防除法の確立

県東部地域で発生する本ぼでの立ち枯れの原因を特定

原因：定植後のアオドウガネブイブイによる根の食害

発生消長：成虫が苗に産卵→本ぼでふ化→根を食害→枯死

対策：定植時に薬剤を処理することによって、被害を軽減できる

静岡県農林技術研究所 | 平成 21 年 4 月～平成 27 年 3 月

・野菜の品質向上技術

2 期作セルリーで花芽分化と品質との関係性を評価し、デイバーナリ利用による花芽分化抑制法を開発した。

エシャレット低温貯蔵期中のカビの発生原因を特定し、入庫前調製、コンテナ改良によりカビの発生を低減した。

消費者が求める葉ショウガの品質・特性を明らかにし、消費者が好む葉ショウガの栽培条件を明らかにした。

・温室メロンの高品質流通技術の実証

温室メロンの貯蔵条件と呼吸・エチレン発生と追熟との関係を明らかにした。15℃以下の貯蔵ではエチレンは発生せず食味が低下する。

貯蔵温度は、20℃～25℃が適し、エチレン処理により香気成分が増加し食味が向上する。

3℃の低温貯蔵、MA フィルム利用等により 1 か月程度、メロンの品質を保持できる。

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

野菜の省力栽培技術

野菜の品質評価・流通・貯蔵技術

脱石油栽培技術

担当授業科目

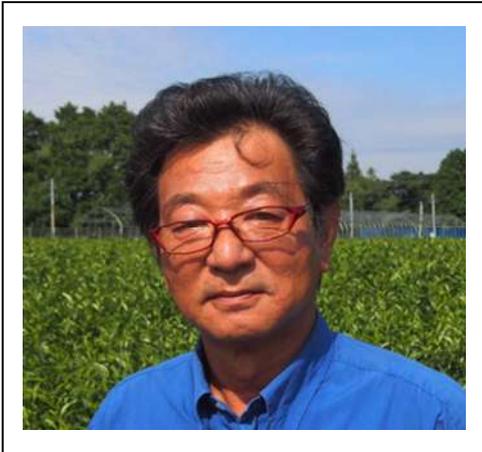
総合実習

県内農林業事情

圃場実習 I（野菜）、作物栽培

なかの たかゆき 中野 敬之

【短期大学部】



nakano.takayuki あつと spua.ac.jp



アピールポイント

JICA の活動をとおして、国外での茶生産について興味を持っています。今後は、地球規模の気象変動が茶生産に及ぼす影響について、考えていきたいと思ひます。

キーワード／専門分野

- ・茶園管理技術
- ・気象災害防止
- ・気象反応特性の解明
- ・生育予測

主な研究分野／活動実績

世界で NO.1 の茶園管理

緑茶、紅茶、烏龍茶は、加工方法の違いによるもので、原料となる茶葉は全て茶園から収穫されます。茶の生産量は中国とインドが多くを占め、日本は 9 位にとどまっています。しかし、日本には高い茶葉生産技術があり、茶園管理作業については、各国とも日本を目指しているのです。

軌条走行式茶園管理装置の開発

茶園内に設置したレール上を電動走行し、自動で茶園を管理する装置を開発しました（写真 1）。本装置を農機具として利用するだけでなく、摘採や整枝などの高さを調節する実験機器として利用し、ミリメートル単位の精度で様々な実験を行い、整・せん枝による枝条管理技術を構築しました。

茶園における凍霜害発生メカニズム解明

凍霜害は、茶の安定生産を脅かす重要な災害ですが、茶園の特定部分のみ発生する特徴がありました。実験室における茶芽の気象反応特性を調査するとともに、現地茶園で気象観測を行い、その原因を解明しました。また、送風法等の気象災害防止技術にも取り組んでいます。

チャ新芽の生育予測

整枝を起点とした茶芽の生育予測法を開発しました（写真 2）。本方法を、広域・高精度で使用する技術開発について検討しています。



写真 1 軌条走行式摘採機



写真 2 一番茶生育予測図

学位 | 表彰

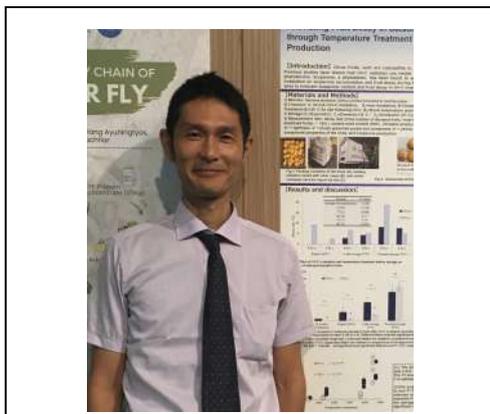
- ・農学士（1983）
- ・日本茶業技術協会（現：日本茶業学会）技術賞（2000）

担当授業科目

- ・農学概論、圃場実習 I II（茶）、県内農林業事情など

山家一哲

【短期大学部】



yamaga.ittetsu@spua.ac.jp



0538-31-7995

アピールポイント



★フルーツファクトリーにチャレンジ



★機械化樹形にチャレンジ

キーワード／専門分野

果樹栽培、青果物鮮度保持、環境保全



主な研究分野／活動実績

所属 | 在職期間

短期大学部生産科学科 | 2020年4月～



主要なテーマ

🕒 樹が大きくなるには、幼い頃の育成がやっぱり大切

果樹の育ち方にも個性があります。果樹類は樹を植えてから収穫できるまでの期間が長く、大人の樹になってたくさんの実をつけるには、子供のころの育成がとても重要です。私たちは、双幹形仕立て（2本の幹を優先的に育成する方法）やLED補光等の樹体管理を通して早期の成木化と安定した果実収量を確保するための研究を行っています。

🕒 ミカンが1個腐ると周りのミカンも本当に腐るのか？

果実は収穫して終わりではなく、消費者に渡るまでに多くの流通経路を経ます。またミカンやリンゴのように何か月間も貯蔵することもあります。貯蔵中や流通の過程では、果実腐敗や鮮度の劣化が問題となります。私たちは光触媒やLEDを使った保存技術確立を進めています。

🕒 私たちは食べたものでできている。ものはどんどん入れ変わる。

食物は、食べた瞬間は私たちの体の一部となります。果実1個の中には、地球内で循環している水、無機成分、光合成で作った成分等が含まれ、その場所で培ったエネルギーを消費者へ提供することと同意と言えます。例えばカンキツ類には、フラボノイドやカロテノイドのような機能性成分があり、栽培方法と機能性成分含量との関係を探ることで、食と健康を考えた研究を行います。

資格 | 特技 | 学位

学位：博士（農学）

資格：普及指導員（第4383号）・日商簿記

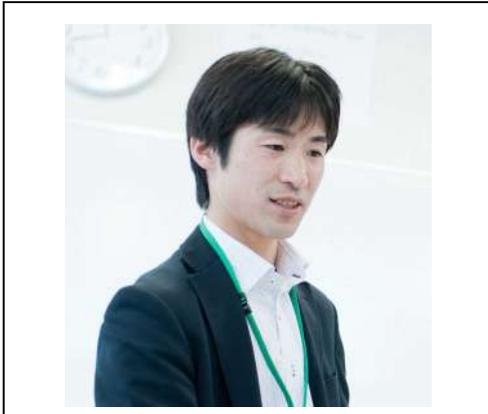
受賞歴：第15回若手農林水産研究者表彰（農林水産省）
園芸功労賞（園芸学会）

担当授業科目

短大：総合実習、圃場実習Ⅰ、圃場実習Ⅱ、企業実習、農学概論
農林業のための科学、土壌肥料植物栄養学、プロジェクト研究
大学：生産マネジメント実習Ⅰ、生産マネジメント実習Ⅱ、圃場実習等

よしまら ちかし
吉村 親

【短期大学部】



yoshimura.chikashi あつと spua.ac.jp



アピールポイント

私自身が農村地域に足を運びながら見聞きし、農村地域が抱える課題に向き合いたいと考えています。

地域住民、行政、各種団体と大学の協働による研究（アクションリサーチ）、新規参入による新規就農者の就農地の選定から定着及び農村地域の担い手への成長過程などに関心があります。

キーワード／専門分野

食農教育、農業小学校、都市農村交流、グリーン・ツーリズム、新規就農、移住、農地、農業と福祉、生涯学習

主な研究分野／活動実績

所属 | 在職期間

- ◎ 新名学園旭丘高等学校 | 2008.4～2010.3
 - ・ 総合技術科教諭として普通高校における農業の教育及びカリキュラム研究に従事
 - ・ 農業をとおして生徒の興味関心や問いを生み出すなどの発達を促す教育や学習集団（交わりと自治）を意識したクラスづくりを実践
- ◎ 国際総合学園新潟農業・バイオ専門学校 | 2010.4～2014.3
 - ・ 開校準備業務を経て、農業経営学科主任講師として学科運営及び教育に従事
 - ・ 教育実践は、通年の農業インターンシップや農家圃場での栽培実習を中心とした地域連携教育（外に出ていく学科）の構築など
- ◎ 公益社団法人岩手県農業公社 | 2014.4～2020.3
 - ・ 農地の貸借・売買（岩手県農地中間管理機構）、新規就農者の確保・育成（岩手県新規就農相談センター）の業務に従事
 - ・ 岩手県農林水産部への出向

社会活動

「遺伝子組換えコンセンサス会議」道民委員（北海道：2006）など

所属学会等

日本農業教育学会、日本社会教育学会、日本園芸福祉普及協会

研究内容

〔テーマ〕 農業・農村体験学習に関する研究

〔概要〕 農と食を農村地域で継続的に学習する実践の効果分析

- ① 参加者、指導者及び活動支援者等の学習過程と意識変容
- ② 農業経営や農村地域への波及効果



資格 | 学位

【資格】 高等学校教諭専修免許状（農業・家庭科）

中学校教諭専修免許状（家庭科）

【学位】 修士（教育学）

担当授業科目

<短期大学部> 農山村田園地域公共学、プロジェクト研究 など

<大学> 農村社会論、農山村デザイン演習、医福食農連携論、グリーン・ツーリズム論 など

あおやま とおいち
青山 東一

【短期大学部】



aoyama.toichi あつと spua.ac.jp



アピールポイント

畜産の普及指導員として、畜産農家と交流し、特に経営改善を重点的に進めてきました。交流のある畜産農家が多数おり、今後、学生の研修先としてお願いをさせていただきます。

キーワード／専門分野

- ・農業
- ・畜産
- ・養豚、
- ・環境、
- ・加工

主な研究分野／活動実績

農林環境専門職大学短期大学部 | 令和 2 年 4 月～

主に、総合実習の教材である鶏の飼育施設の整備等を進めてきました。現在、牛、採卵鶏が飼育され、コースに別れた後の圃場実習 I に備えています。

中遠農林事務所 | 平成 6 年 4 月～ 平成 11 年 3 月

磐田市内の養豚農家が「磐田市良質堆肥生産組合」を設立し、国の補助事業により、糞尿処理のために、メッシュ資材でできた簡易堆肥器を導入した。国内初の導入のため、技術の確立が望まれていたことから、水分調整の副資材や詰め込み量などを変えた試験区を設定し、堆肥器内の温度変化や水分量の変化、発酵状況等を調査し、詰め込み時の水分を 70%～65%、重量は、500 kg 以下とし、ふんわりと詰めることで、発酵が促進されることがわかり、定例会での各農家からの状況報告や農家を巡回指導しながら技術を普及した。

中遠農林事務所 | 昭和 60 年 4 月～ 平成 2 年 3 月

掛川市内の養豚農家を対象に、経営収支のデータを取りまとめ、経営改善に向けた検討会を実施した。その中で、種豚を揃え、共通の飼料を給与することで、品質の優れた肉豚生産を目指すこととなり、掛川市農協の営農指導員と連携し、掛川銘柄豚振興協議会を立ち上げた。主に、年二回の経営検討会の資料作成と当日の進行を担当し、内容は、経営収支、生産性(繁殖・産肉)分析による課題の抽出と改善目標の設定とした。また、産肉性分析に肉豚出荷時のと場枝肉伝票を利用することで、内臓の廃棄部位を疾病発生の要因として追加集計し、家畜保健衛生所の職員と連携して、疾病発生分析と改善を図ることで、養豚農家の経営改善に取り組んだ。結果、県下で初となる銘柄豚「掛川フレッシュポーク」が誕生した。

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

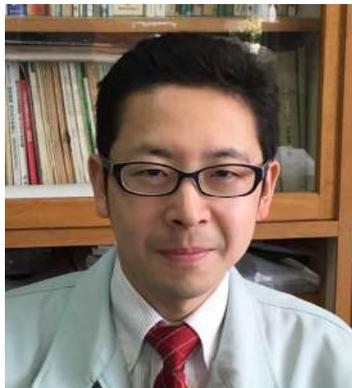
普及指導員、家畜人工授精士(牛)、毒物劇物取扱責任者、車両系建設機械特別教育修了証、大型・大型特殊自動車運転免許、乙種 1・2・3・4・5・6 類危険物取扱、フォークリフト運転技能講習修了証、甲種火薬類取扱保安責任者、丙種火薬類製造保安責任者、網・わな狩猟免許

担当授業科目

新入生セミナー、総合実習、圃場実習 I、圃場実習 II、企業実習、プロジェクト研究、畜産経営演習(中小家畜)

いけがや あつし 池ヶ谷 篤

【短期大学部】



主な研究分野／活動実績

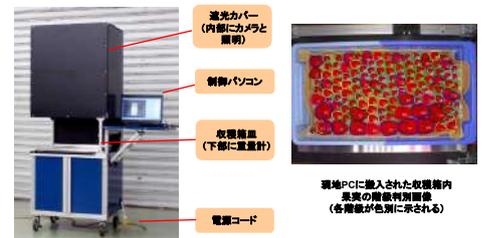
静岡県農林技術研究所 | 2009-2011, 2016-2019

【イチゴ生産の機械化にかかわる研究】

イチゴの集出荷を自動化するために、非破壊で糖度を測定する装置や入荷を自動化するための画像処理装置を開発しました。



イチゴの非破壊糖度測定装置



イチゴの入荷自動化装置

【農産物の輸出に関する研究】

静岡県産農産物の輸出を推進するための技術開発及び実証試験に取り組み、シンガポールへ計5回の船便による輸送試験を実施し、混載輸送技術を確立しました。



輸出した農産物



コンテナと輸送船



現地での評価

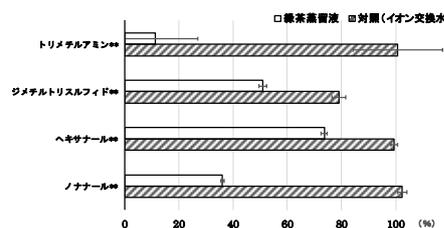


ikegaya.atsushi あつと spua.ac.jp



静岡県工業技術研究所 | 2012-2015

緑茶から抽出した「香り」を病院等で有効活用するための研究を実施し、緑茶の香り成分が「がん」の病臭を抑える効果を明らかにしました。



緑茶の香り成分が病臭を抑える効果



緑茶の香りの病院での活用

アピールポイント

食品は「おいしい」ものを「楽しく」食べることが大切ですが、食品の「おいしさ」や「楽しさ」には不明なことが多いため、がんばって研究をしています。

特に野菜や果物の貯蔵・加工やおいしさの評価が得意です。

キーワード／専門分野

【キーワード】

イチゴ、食品加工、官能評価、貯蔵流通、輸出

【専門分野】

食品加工学、調理科学、青果保蔵学

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

【資格】 高等学校教諭一種免許状（理科、農業）、普及指導員、二級ボイラー技士、第一種衛生管理者

【学位】 博士（食品栄養科学）

【研究テーマ】 生鮮品の“おいしさ”の評価方法の確立

担当授業科目

<短大> 食品加工演習、マーケティング・販売演習、プロジェクト研究

さかぐち りょうすけ
坂口 良介

【短期大学部】



sakaguchi.ryosuke あつと spua.ac.jp



アピールポイント

私たちの研究は、農業現場へ直接還元することが重要であると考えています。トマトや養液栽培に限らず、野菜の生産現場で問題となっていることに対し、共に取り組んでいきます。

キーワード／専門分野

- ・野菜
- ・トマト
- ・養液栽培
- ・土壌
- ・植物栄養

主な研究分野／活動実績

静岡県立農林大学校・農林環境専門職大 |2016～

農林大学校ではトマトを中心に、野菜の栽培指導を行ってきました。特にトマトについて、夏季高温期の生産技術の向上について学生と取り組んできました。

研究テーマ「トマトの生理障害対策」

トマト栽培においては、夏季高温期を中心に裂果や尻腐果等障害果の発生が多く可販果収量が低下しており、特に高糖度トマト栽培において顕著です。そこで、これらの障害を抑制するため、培地の検討、培養液管理、仕立て方法等草勢管理による栽培管理手法について検討し、体系的な栽培管理指針を作成し、高糖度トマトの安定生産につなげていきます。



静岡県富士農林事務所 |2004～2007

静岡県中遠農林事務所 |2009～2012

野菜の普及指導員として、多くの現場に入り、農家と共に仕事をしました。

主な実績として

- ・レタストーン栽培における支柱打ち込み機の実証、普及
- ・シロネギの黒腐菌核病の防除法の普及
- ・食育を通じた富土地域における地場野菜の学校給食への活用及び供給システムの構築

JICA 青年海外協力隊（パラグアイ派遣） | 2007～2009

パラグアイでは、農業学校を拠点に土壌分析技術の向上や農家への土壌分析の普及を行いました。また農家に対し、分析データを活用した施肥技術の指導を行ってきました。

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

高等学校教諭一種免許状（理科） 普及指導員（農業）

担当授業科目

総合実習 圃場実習 営農と農業関連法 県外農林業事情
GAP 演習 企業実習 プロジェクト研究 生産マネージメント実習

せ と たかひろ
瀬戸 隆弘

【短期大学部】



seto.takahiro あつと spua.ac.jp



アピールポイント

理論をかみくだいて説明することはうまくと前職の現場の人や学生に言われました。

また、センサーで計測された牛の反芻データの読み方についてはお役に立てるかもしれません。今後ともよろしく願っています。

キーワード／専門分野

- ・酪農 予防獣医療
- ・生体モニタリングデータの活用

主な研究分野／活動実績

主な研究分野：動物生産科学（酪農）、獣医学

活動実績：

1 経歴

H24-R1 静岡県畜産技術研究所 酪農科

同上 静岡県立農林大学校畜産分校 講師

R2- 現職（畜産コース 講師）

2 研究実績

- ・牛の乳房炎（細菌感染による乳房の炎症、乳の変質）の予防に関する研究（H24-25、H29-R1）
- ・牛の乳房腫瘍（ウイルスによるイボ）の治療法開発（H26-27）
- ・生乳中の低温細菌（殺菌前の生乳変質に影響）の汚染源調査（H28-29）
- ・牛の反芻モニタリングからの、分娩前後の疾病予測と予防法の開発（H27-29）
- ・緑茶飲水給与による牛への影響調査（H30）
- ・子牛の行動量からの採食行動検知技術の開発（R1）

詳細は <https://researchmap.jp/setotaka> を参照してください。

3 教育実績

乳牛の飼養管理全般や乳製品加工について講義、実習を実施し、1～3人/年の学生の卒論指導をしていました。

4 その他実績

乳牛の繁殖管理、受精卵採卵、乳房炎管理を主に実施していました。

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

資格：獣医師、普及指導員（畜産）、ディープラーニング G 検定

特技：獣医の割には数字読むことは得意です（逆に臨床はさっぱりです）。

学位：博士（獣医学）

「シリアンハムスターを用いた効率的なハンタウイルス分離法の開発及びマウスを用いたハンタウイルス感染症の動物モデルの確立」

研究テーマ：

1 3D 画像を用いた牛の体重推定システムの開発

畜産技術研究所や県内メーカーと共同で現在開発しています。

2 反芻データ等を用いた牛群の診断、疾病予測

大規模農場における反芻データ等を現在分析しています。

まだ夢物語なのですが、いわゆる聴診、体温測定等と同じ感覚で、モニタリングデータを診断指標の一つにできないかと模索しています。

担当授業科目

<短大> 家畜生理解剖、総合実習、圃場実習 I、圃場実習 II、プロジェクト研究

ほしかわ たけし 星川 健史

【短期大学部】



[hoshikawa.takeshi あつと spua.ac.jp](mailto:hoshikawa.takeshi@spua.ac.jp)



アピールポイント

林業経営から、木材の加工・流通までを研究した経験があり、総合的な視点で現場の課題解決のお手伝いができたらと思います。また、専門分野のリモートセンシングは近年、ドローンの普及などから大きく用途が広がっており、即戦力としての導入を支援します。

キーワード／専門分野

- ・林業経営
- ・木材加工
- ・木材流通
- ・リモートセンシング

主な研究分野／活動実績

静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター | 2008-2019

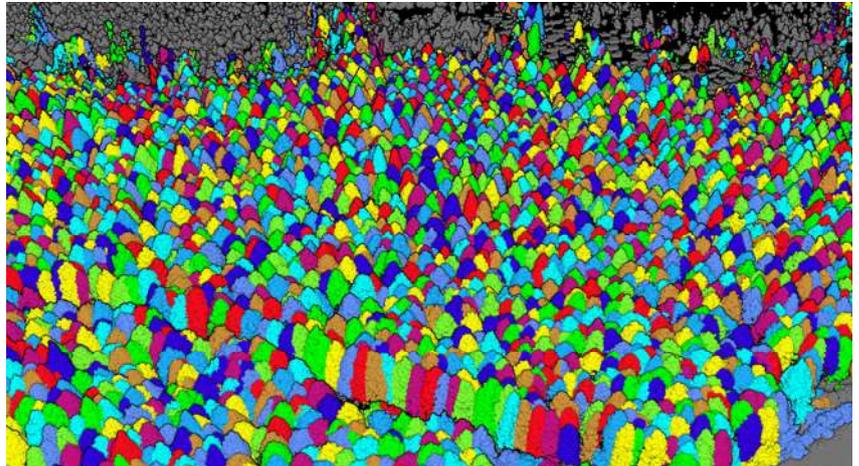
森林組合や木材加工業の方たちと協力しながら、業界の技術革新に直結するような研究をしていました。最近の例では、ドローンを使った森林調査技術を開発し、林業で活用されています。

2018年3月まで、農林水産省のプロジェクトで、無人航空機メーカーと協力して松林への農薬散布・モニタリング技術の開発を行い、そのプロジェクトリーダーを務めました。



マツ材線虫病（松くい虫）の蔓延したマツ林の空撮画像

2020年3月まで、静岡県新成長戦略研究で、ドローンによる森林資源量の推定技術の開発を行いました。現在、民間企業がその技術を活用してサービスを展開しています。



人工林の森林資源量推定のために個体を色分けした状況

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

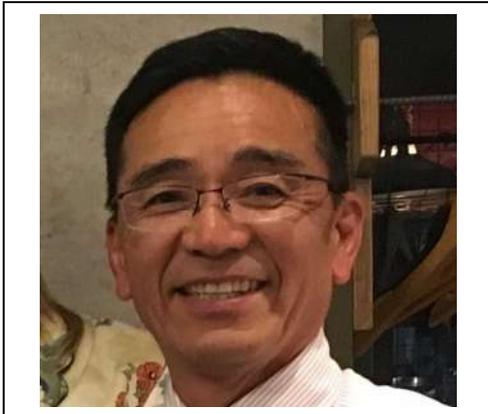
名古屋大学大学院生命農学研究科 博士前期課程 修了

担当授業科目

木材加工実習・演習林実習〈大学〉生産マネジメント演習 I・総合実習・木材利用流通論・県外農林業事情

ますだ としひこ
増田 壽彦

【短期大学部】



masuda.toshihiko あつと spua.ac.jp



アピールポイント

静岡県の農業技術職として、農林事務所、農林技術研究所、農林大学校、県庁に勤務。野菜の現地指導の経験が長く、この経験を活かした教育を目指す。農業関連の事業、指導手法など現地事例を踏まえ授業を展開。

キーワード／専門分野

- ・野菜栽培
- ・営農指導
- ・普及指導
- ・砂地野菜
- ・スイートコーン栽培

主な研究分野／活動実績

中遠農林事務所 | 昭和 55 年～昭和 60 年

砂地土壌の特殊性から土壌に肥料をため込む力が少ない。そこで、野菜における緩行性の肥料（ロング）を現地の農業者と試験栽培を実施し、これを踏まえ、各野菜（イチゴ、里芋など）の専用配合肥料をメーカーと共に開発した。

農業試験場普及課・県庁農業振興室 | 平成 14 年～平成 20 年

専門技術員として県下の普及指導員に、営農指導としての野菜技術、普及活動の方法、情報の提供などをし、現場の普及活動を支援した。普及指導員の活動を外部（団体や県の職員）に理解してもらうための調査研究内容を発表会の場を設け積極的に発信する活動とした。

静岡県農林技術研究所 企画調整部 | 平成 24 年～平成 28 年

農業を始めとする生産現場では、労働力の絶対的な不足が社会全体で問題視されてきた。このため、農林技術研究所において農業ロボット研究会を設立し、農業現場からの機械化やロボット化への要望と、開発する企業とのマッチングを立ち上げた。この研究会は、農業の労働力の現状やロボット化した作業効率への期待が寄せられた。

資格 | 特技 | 学位 | 研究テーマ

農業改良普及員資格

専門技術員資格（野菜及び芋類）

担当授業科目

圃場実習（オムニバス）、総合実習（オムニバス）

生産マネジメント実習Ⅰ（栽培）、生産マネジメント実習Ⅱ（栽培）